

2. ダムに関する対話討論会

2. 2 余野川ダム（猪名川総合開発工事事務所）

2. 2. 1	対話討論会（円卓会議）について	1～22
2. 2. 2	ファシリテータとの検討会資料	23～24
2. 2. 3	余野川ダムについての住民対話討論会 総括報告	25～46

対話討論会（円卓会議）について

対象テーマ

- ・河川敷保全と利用について（琵琶湖河川事務所）
- ・大戸川ダムの計画見直し案について（大戸川ダム工事事務所）
- ・余野川ダムについて（猪名川総合開発工事事務所）

平成16年2月26日

近畿地方整備局

余野川ダムについて

猪名川総合開発工事事務所

余野川ダムについての住民対話討論会総括報告

猪名川総合開発工事事務所

1.開催概要

第1回

開催日時：平成16年1月25日（日）

開催場所：箕面市立箕面文化センター 8階大会議室

参加者数：河川管理者3名・ファシリテーター1名・発言者8名・委員3名
一般傍聴者117名

第2回

開催日時：平成16年2月14日（土）

開催場所：箕面市立箕面文化センター 8階大会議室

参加者数：河川管理者3名・ファシリテーター1名・発言者8名・委員2名
一般傍聴者101名

2.実施内容

- 1) 提出された意見は20通であった。（討論会で発言を希望しない2名を含む。）
- 2) 1回目の開催(3時間程度)では討論が終息せず、もう少し討論を続けることが必要となり、2回目を開催するに至る。尚、2回目の開催は、同会場にて同様の時間帯に設定をし、開催する。
- 3) 討論会については、ファシリテーターと8人の発言者を中心に討論を行い、また、会場内より意見を募集しファシリテーターが紹介を行った。（第1回、2回共同様）
- 4) 意見発表者の選択については、時間的な制約から、8名程度が適当であると判断し選考を行った。選考趣旨は、意見がなるべくバラエティーに富むよう考慮し、意見要旨の発表順序に関しても、同じ意見が続くのを避けるような配席に心がけた。また、選択されなかった意見投稿者についても、簡単な紹介を行った。

3.ファシリテーターからの報告

【別紙-1 参照】

4.発言応募数及び当日発言者数

実施日	開催地区	発言者		選定理由
		応募者数	発言者数	
1/25	第1回 箕面地区	18	8	反対意見12名、中立的意見1名、賛成意見5名の 応募があり、時間的制約、発言内容のバランス を考慮し8名を選出。 (反対4名・中立1名・賛成3名(地元住民2名 含む))
2/14	第2回 箕面地区			
意見のみ		2		討論会での発言を希望しない方等
合計		20	8	

5.傍聴者の参加人数等

実施日	開催地区	事前申込者	参加者数			合計	備考
			事前申込	当日参加	報道機関		
1/25	第1回 箕面地区	111	72	45	0	117	
2/14	第2回 箕面地区	63	50	51	0	101	
合計		174	122	96	0	218	

6.傍聴者の事前申込方法

実施日	開催地区	葉書	FAX	メール	その他	合計
1/25	第1回 箕面地区	1	48	59	3	111
2/14	第2回 箕面地区	5	24	34	0	63
合計		6	72	93	3	174

7.住民対話討論会 実施状況

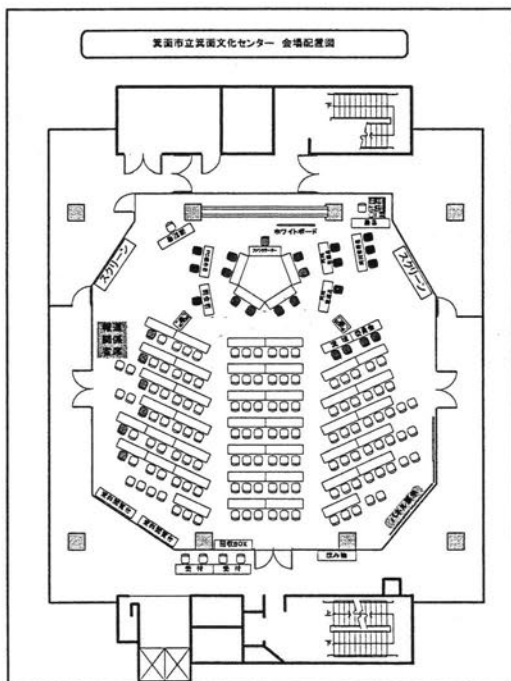
実施日		開催	会場名	ファシリテーター	淀川水系流域委員会 出席委員		
1/25 (日)	13:30～ 16:30	第1回	箕面市立箕面 文化センター	澤井 健二	池淵 周一	細川ゆう子	本多 孝
2/14 (土)	13:30～ 16:30	第2回	箕面市立箕面 文化センター	澤井 健二	細川ゆう子	本多 孝	

8.会場内当日意見数

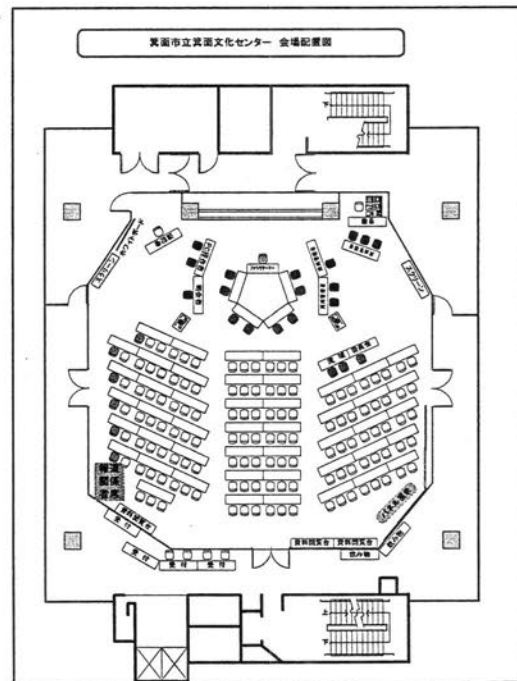
実施日		開催	意見数
1/25 (日)	13:30～16:30	第1回	32
2/14 (土)	13:30～16:30	第2回	16

9.座席配置図

1)第1回開催時



2)第2回開催時



10.アンケート結果

1) 第1回開催時

【別紙-2 参照】

2) 第2回開催時

【別紙-3 参照】

余野川ダムについての住民対話討論会

2004.2.25

ファシリテータ 澤井健二

【出された主な意見】

余野川ダムの目的（必要性）

利水

一庫ダムの利水容量の振り替え

どこの（だれの）ための利水なのか。

池田市、豊野町？

水需要予測が適切か

流域人口は近い将来 20~30%程度減少。

現在は水が余っている？

池田市、箕面市、阪神水道事業団は撤退。

しかし、渇水（取水制限）は頻発している。

水田の保水機能の減少。

今後、長期的には気候変動で渇水が頻発することが懸念される。

地震時等の非常時対策も必要。世界的には 21 世紀は水戦争の世紀？

他に水源が求められないか。

大阪府営水道（淀川）、地下水（井戸）、雨水、溜め池等、多様な水源。

水利権の公開、見直し。工業用水、農業用水。

水の再利用や生活様式の変更によって需要を減らせないか。節水。

九州などに比べて、阪神地区は水を使い過ぎ。

水道料金へのはね返り

治水

狭窄部上流多田地区の浸水被害の軽減

抜本的には狭窄部の開削が有効

それには下流の改修が前提

無堤地区の改修は3年でできる見こみ

下流の堤防強化については検討中

早期に効果を期待するには、一庫ダムの放流操作変更が有効

堆砂容量、利水容量の振り替え、嵩上げ、分水路

しかし、一庫ダムの流域は猪名川流域の50%しか占めていない。

他に遊水地や緑のダム等が期待できないか。広葉樹林等の治山。流出係数の抑制。

下流部の浸水被害軽減

余野川自体の治水

99年の大雨（既往最大規模）で田畑が一部冠水

大阪府の管理区間であるため、国では計画がたてられない。

ダムによる治水安全度の向上を期待して、置き去りにされてきたのではないか。

余野川本川だけの治水なら、ダム以外にいくつか方法があると考えられる。

ダムにするとしても、規模を縮小できるはず。

国のダム計画に関連しているのだから、府の管理区間であっても、国が関与すべき。

猪名川本川下流部の治水

余野川ダムの集水域は猪名川流域の数%に過ぎず、猪名川本川への治水効果は小さい。

マニング式で推定すると、24cm程度の水位低下が見込まれる。

その精度はともかくとして、この程度の水位低下を効果が小さいと見るのか大きいと見るのか。それは、予想被害額によって評価できるのではないか。

堤防天端より1.5m低い水位で破堤するという仮定での氾濫予想は大き過ぎないか。

河道の容量はもっと大きいはず。それより1.5mも低い水位で破堤するような堤防を放置しているのは、管理者の怠慢でないか。余裕高の意味。水をためる機能はない。

河床掘削、引堤、遊水地、放水路、ソフト対策（避難、土地利用）

堤防強化

破堤には3つのタイプ（越水、洗掘、浸透）。計画高水位に至らなくても破堤はありうる。

洪水の原因

昭和35年（既往最大）規模の降雨は計画として大き過ぎないか。

計画洪水は雨量でなく流量で考えるべき。

被害想定は、ひとつの規模の洪水に対してのみ行うのではなく、種々の規模のものに確率を掛け合わせて累加すべき。

上流の開発による流域の保水機能の低下

地球温暖化の影響等による豪雨の頻発の懸念

計画を上回る洪水への対応

異常気象の予測はきわめて困難であり、余裕をもった計画が必要。

ダムを作ると、計画を上回る洪水に対してかえって被害を大きくしないか？

被害をなくすことはできないが、浸水を遅らせる効果がある？

期待される効果

地域活性化

地元では、過疎対策として、西山宅地開発事業との一体化による相乗効果を期待。

超高齢化への懸念。若い力の導入には何をすればよいか。

道路建設、雇用拡大、集客、潤い・やすらぎ。人命。環境保全。地場産業や暮らし。

止々呂美地域まちづくり基本構想、水と緑の健康都市（400ha）。国土交通省の研究会。

財政難で規模は縮小。

交通の利便性、ボート、渡り鳥。桜並木。魚取り。

冬温かく、夏涼しい。親子で住めるエイジレスタウン。

治水、利水のため、水位の低い期間があるので、過剰な期待はできない。

弱者に強いまちづくり。小中一貫教育。

すでに、4割の土地を売却済みで、元に戻れない。

これらのはたして地域の活性化につながるか。新しい災害をひき起こさないか。

地すべりの懸念。砂地の部分と岩質の部分を識別。

市街化調整区域として残す。

ダムは地元の利益のために作るものではない。

しかし、犠牲に対する見かえりは欲しい。共栄。

懸念される問題

環境の悪化

近くの事例として、箕面川ダム、一庫ダムで水質が悪化。

周辺の状況にうまく景観がマッチし、新しい環境が創造されつつある？

自然の変動はしかたがないが、人為的な操作はよくない。

自然環境 気象、生物（生態系）、景観、土砂、下流のかく乱機能の低下、流況の変化、水質

社会環境 漁業（河口）

庫の地区は自然の宝庫。オオタカ。昆虫。

自然の治癒力が期待できる？

都市の近郊では開発は不可避？

市街化区域にする？

市民の加わった環境アセスの必要性

財政

すでに半分ほどの投資の済んだ現在、中止が許されるか。

多大の赤字を抱えている国の財政を考える時、多額の費用を要するダム建設はやめるべき。

治水・利水を考える時、財政の問題は別。節約は当然だが、必要なものには投資が必要。

ダムへの投資を堤防強化やもっと他の地元活性化対策に回せないのか。

特定多目的ダム法にこだわると、ダム以外への転用ができなくなる。

地域の安全や活性化を図るためのもっと広い視点に立った財政が必要。

【ファシリテーターの感想と今後の方向】

解決のいとぐち

行政の縦割りからの脱却

財政支出における、行政の縦割りの弊害から脱却しないといけない。

国と府県、市町村。国土交通省と他省庁等の分野間。

住民参画、情報公開

定量的、具体的なデータの公開。

市民参加によるアセスメント。合意形成。

事業制度としての「いわゆる総合治水事業」でなく、「文字通りの総合的な治水」の必要性。

流域の保水力の向上。浸水を許容した治水。一時的避難。移転も視野のひとつ。

種々の要因の総合評価

即効対策と長期対策の識別

従来計画通りのダムの可否だけでなく、ダム規模の縮小も案のひとつ

地元活性化への流域を挙げての支援。技術、経済、行政の英知の結集。

ダムを拒否して、環境を優先させながら地域振興を図っている美山町の事例。

ダムを作らない場合の地元の治水対策の検討。

既に概成している導水トンネルの活用。

住民対話集会の意義と今後への期待

意義

いろいろな意見をもった住民が直接に意見を述べ合う良い機会であった。

発言者の人数

希望者が18人あったところを8人に絞ったのは適切。

もう少し少なくしてもよかったのでは。

前もって提出された意見書により、概ねダム推進と反対の意見が同数になるように発言者を選んだが、それでよかったか。希望者の内訳では反対意見の方が12人あった。

発言者に地元の方を2名入れたが、1人でよかったのではないか。

発言者の1人に市議員が含まれていたことに対する異論がアンケートにあったが、私は問題なかったと考えている。

もう少し、発言者の年齢構成が広がるよう工夫が必要。

討論会の回数

当初は1回のみを設定していた。しかし、十分な議論がつくせず、2回目を開催した。

2回目で十分議論が尽くせたかと言えば、そうではないが、意見の種類としては、出尽くしたように思える。

合意の形成に向けて

今後、住民の合意形成が必要になると考えられるが、それにはさらに討論会を継続する必要がある。しかし、その場合には、発言者、さらにはファシリテーターも選び直した方がよいであろう。また、発言者（場合によっては傍聴者も）が一度一緒に現地を視察することも有効であろう。

いずれにせよ、討論会で発言できるのは限られた人数であり、これで、住民の意見を代表できているかどうかは疑問である。意見の種類としては網羅できているとしても、その人数分布を把握するため、住民全体にアンケート調査を実施することも有効であろう。

会場の形態とメンバーについて

今回は発言者のみが円卓形式で討論し、傍聴者は後ろから見る形になったが、会場全体としての一体感を持たせるには、円卓でなく、八の字型のテーブル配置が適切であろう。また、今回は事務所や流域委員はなるべく発言をしない形で進められたが、今後はリアルタイムで応答していただくのがよいのではなかろうか。傍聴者からの質問・意見書や発言の機会については、さらによい方法を考える必要がある。(たとえば、意見書をあらかじめ提出していただくなど)。他の地域で行われているように、ポストイットを用いたワークショップ形式も一法であるが、深い議論にはなかなか入りにくく、また、テーブルが複数あると、他のテーブルでの議論の内容が把握できないので、パネル形式は持続していただきたいと考えている。討論は必ずしも一同に会した討論会の形式だけでなく、インターネットを介した電子討論も可能であり、適宜組み合わせるはどうであろうか。また、人によって知識レベルに大きな開きがあるので、レベルごとに分けた討論会の企画も有効であろう。

発言者の用意された資料や説明がわかりづらい場合もあったが、これは、事前に資料を提出してもらったり、場合によっては専門家に補助をしてもらってはどうか。

テーマの絞込みについて

今回は1回目の前半は発言者に自由に発言していただき、その後、テーマごとに討論を進めたが、今後はさらにテーマを絞り込んで人選を行うなどの工夫も有効であろう。

発言者のマナーについて

発言に当たっては、お互いの感情を害さないよう、言葉使いに気をつける必要がある。また、1回の発言をあまり長くすると、他の方に迷惑をかけるだけでなく、焦点がぼやけるので、簡潔にまとめて発言していただく必要がある。

余野川ダムについての住民対話討論会に関するアンケート

【アンケート結果】

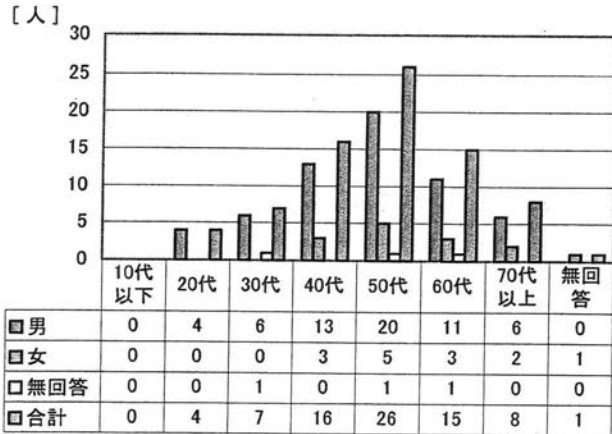
平成 16 年 1 月 25 日
箕面市立箕面文化センター

住民対話討論会 アンケート結果

年代・性別

回収枚数 77

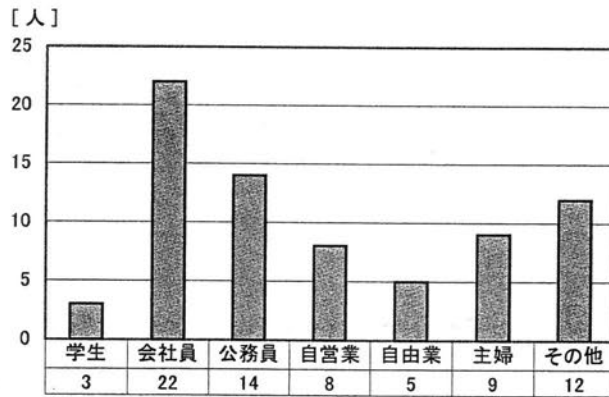
	男	女	無回答	合計
10代以下	0	0	0	0
20代	4	0	0	4
30代	6	0	1	7
40代	13	3	0	16
50代	20	5	1	26
60代	11	3	1	15
70代以上	6	2	0	8
無回答	0	1	0	1
合計	60	14	3	77



職業

有効回答数 73

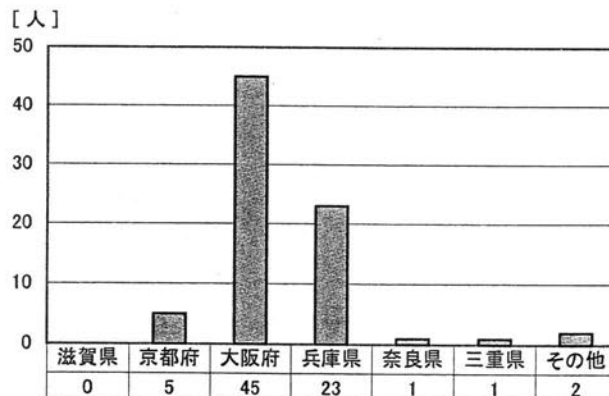
学生	3
会社員	22
公務員	14
自営業	8
自由業	5
主婦	9
その他	12
無回答	4
合計	77



住所

有効回答数 77

滋賀県	0
京都府	5
大阪府	45
兵庫県	23
奈良県	1
三重県	1
その他	2
無回答	0
合計	77



Q1.この住民対話討論会に参加いただいたきっかけを以下から選んでください。(複数回答可)

有効回答数 90

国土交通省__事務所から案内があった 45

- ・猪名川河川事務所 6
- ・猪名川総合開発工事事務所 18
- ・猪名川工事事務所 7
- ・猪名川事務所 8
- ・池田事務所 1
- ・記入なし 5

流域委員会に所属する委員から紹介された 3

知人(委員以外)から紹介された 5

行政関係者から紹介された 7

自治体窓口のチラシ 3

ホームページ(近畿地方整備局__河川事務所等) 8

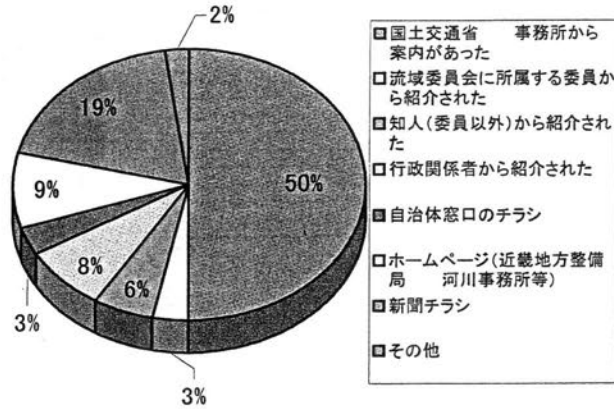
- ・猪名川事務所 2
- ・猪名川総合開発工事事務所 1
- ・記入なし 5

新聞チラシ 17

その他 2

無回答 3

合計 93



Q2.今回の参加目的を以下から選んでください。(複数回答可)

有効回答数 124

余野川ダムに関心があった 64

環境に関心があった 26

どのような会なのか関心があった 18

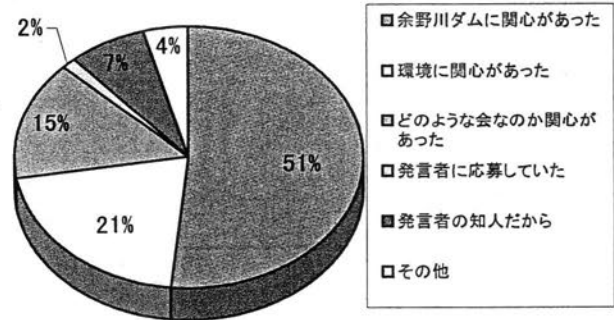
発言者に応募していた 2

発言者の知人だから 9

その他 5

無回答 0

合計 124

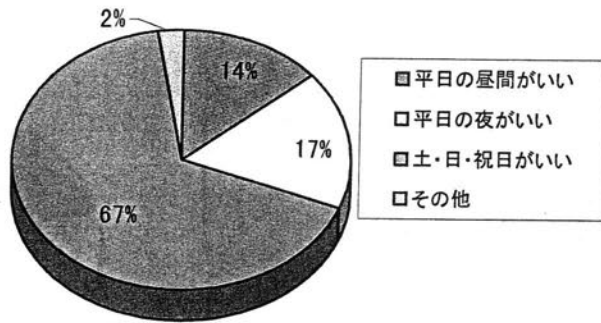


Q3.住民対話討論会の運営に関するご意見を以下から選んでください。

3-1.実施する曜日と時間について(複数回答あり)

有効回答数 81

平日の昼間がいい	11
平日の夜がいい	14
土・日・祝日がいい	54
その他	2
無回答	0
合計	81



3-2.実施場所・地区について(複数回答あり)

有効回答数 78

この地区ではこの会場は適している	67
この地区では他に適している会場がある	5

- ・メイプルホール等 1
- ・箕面市民会館(駐車場が無料使用可) 1
- ・伊丹情報センター 1
- ・池田市民会館・アステール・川西市民会館 1
- ・同じ場所の方がわかりやすい 1

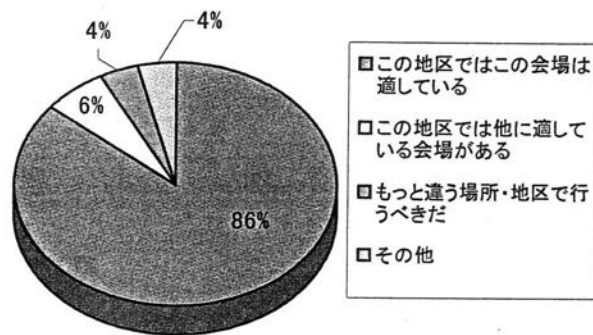
もっと違う場所・地区で行うべきだ	3
------------------	---

- ・大阪市中央区 大阪産業創造館 1
- ・川西 1
- ・記入なし 1

その他	3
-----	---

- ・広い場所 1
- ・交通の便のよい場所 1
- ・ダム建設場所に係らず 事業に 影響ある地域 1

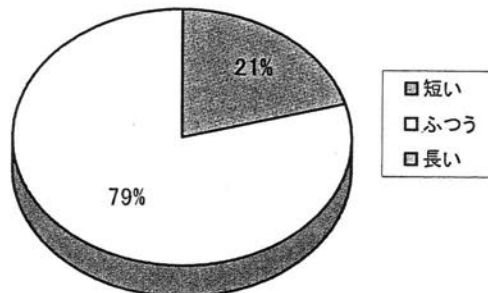
無回答	1
合計	79



3-3.住民対話討論会での討議時間について

有効回答数 68

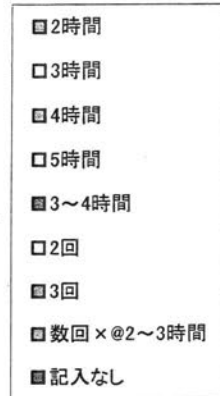
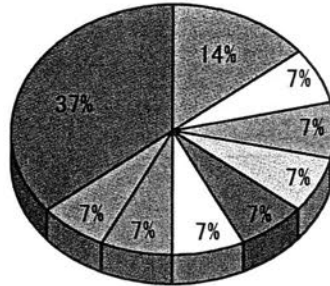
短い	14
ふつう	54
長い	0
無回答	9
合計	77



短い・長いと思われる方にお尋ねします。どのくらいの時間が適切だと思われていますか。

有効回答数 14

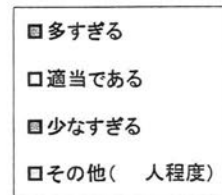
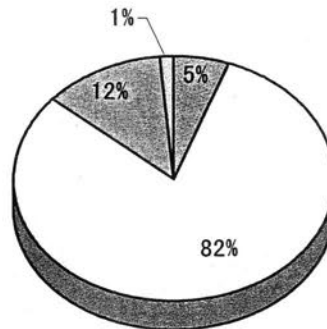
2時間	2
3時間	1
4時間	1
5時間	1
3～4時間	1
2回	1
3回	1
数回×@2～3時間	1
記入なし	5
合計	14



3-4. 発言者の人数について (複数回答あり)

有効回答数 73

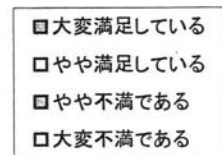
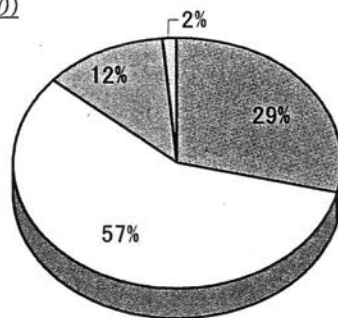
多すぎる	4
適当である	59
少なすぎる	9
その他(人程度)	1
[・6人 1]	
無回答	6
合計	79



3-5. ファシリテーターをおく方式について (複数回答あり)

有効回答数 66

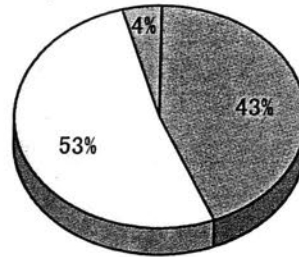
大変満足している	19
やや満足している	38
やや不満である	8
大変不満である	1
無回答	12
合計	78



Q4. 今回の住民対話討論会について (複数回答あり)

有効回答数 | 69

有意義だった	30
まあまあ有意義だった	36
有意義ではなかった	3
無回答	9
合計	78

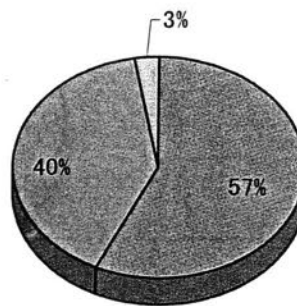


有意義だった
 まあまあ有意義だった
 有意義ではなかった

Q5. 今後このような住民対話討論会があった場合、参加したいと思われませんか (複数回答あり)

有効回答数 | 72

是非参加したい	41				
参加したいと思わない	0				
テーマによって参加したい	29				
その他	2				
(<table border="0" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>・できるだけ参加 (傍聴) したい</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>・余野川ダムに賛成の地域住民と話し合える場の設定がほしい</td> <td>1</td> </tr> </table>)	・できるだけ参加 (傍聴) したい	1	・余野川ダムに賛成の地域住民と話し合える場の設定がほしい	1	2
・できるだけ参加 (傍聴) したい	1				
・余野川ダムに賛成の地域住民と話し合える場の設定がほしい	1				
無回答	6				
合計	78				



是非参加したい
 参加したいと思わない
 テーマによって参加したい
 その他

第2回 余野川ダムについての住民対話討論会に関するアンケート

【アンケート結果】

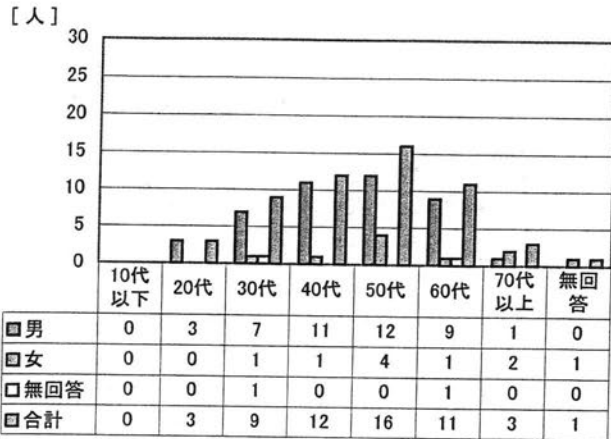
平成 16 年 2 月 14 日
箕面市立箕面文化センター

第2回 住民対話討論会 アンケート結果

年代・性別

回収枚数 55

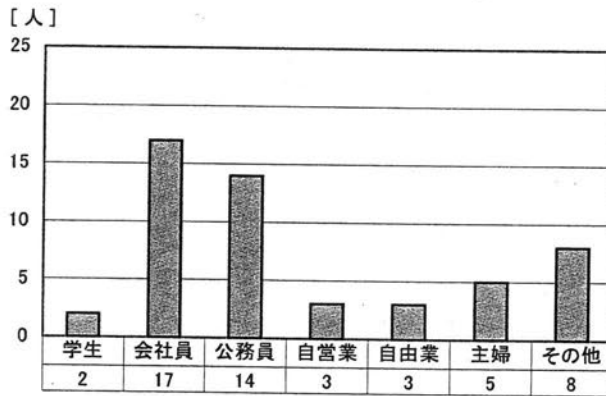
	男	女	無回答	合計
10代以下	0	0	0	0
20代	3	0	0	3
30代	7	1	1	9
40代	11	1	0	12
50代	12	4	0	16
60代	9	1	1	11
70代以上	1	2	0	3
無回答	0	1	0	1
合計	43	10	2	55



職業

有効回答数 52

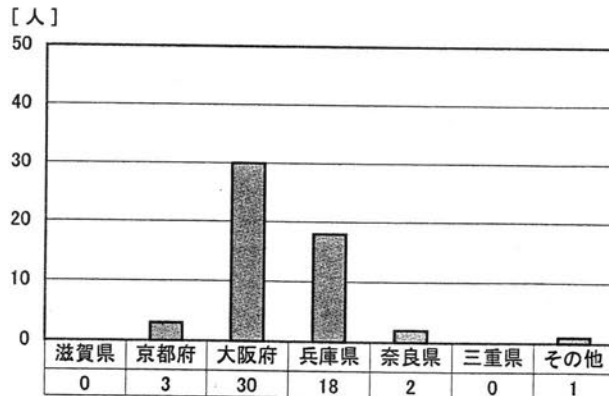
学生	2
会社員	17
公務員	14
自営業	3
自由業	3
主婦	5
その他	8
無回答	3
合計	55



住所

有効回答数 54

滋賀県	0
京都府	3
大阪府	30
兵庫県	18
奈良県	2
三重県	0
その他	1
無回答	1
合計	55



第2回 住民対話討論会 アンケート結果

Q1.この住民対話討論会を何でお知りになりましたか。(複数回答可)

有効回答数 76

国土交通省__事務所から案内があった 24

- ・猪名川河川事務所 1
- ・猪名川総合開発工事事務所 13
- ・猪名川工事事務所 1
- ・猪名川事務所 3
- ・記入なし 6

流域委員会に所属する委員から紹介された 2

知人(委員以外)から紹介された 5

行政関係者から紹介された 0

自治体窓口のチラシ 5

ホームページ(近畿地方整備局__河川事務所等) 7

- ・猪名川事務所 1
- ・猪名川総合開発工事事務所 2
- ・記入なし 4

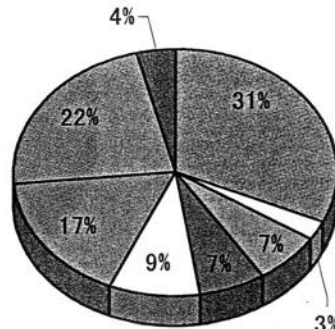
新聞チラシ 13

前回の住民対話討論会に参加した 17

その他 3

無回答 1

合計 77



- 国土交通省 事務所から案内があった
- 流域委員会に所属する委員から紹介された
- 知人(委員以外)から紹介された
- 行政関係者から紹介された
- 自治体窓口のチラシ
- ホームページ(近畿地方整備局 河川事務所等)
- 新聞チラシ
- 前回の住民対話討論会に参加した
- その他

Q2.今回の参加目的を以下から選んでください。(複数回答可)

有効回答数 100

余野川ダムに関心があった 38

環境に関心があった 13

前回の住民対話討論会に参加した 23

前回の住民対話討論会に参加できなかった 4

どのような会なのか関心があった 11

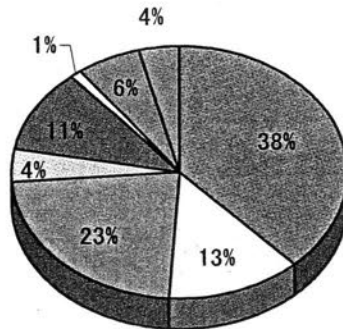
発言者に応募していた 1

発言者の知人だから 6

その他 4

無回答 0

合計 100



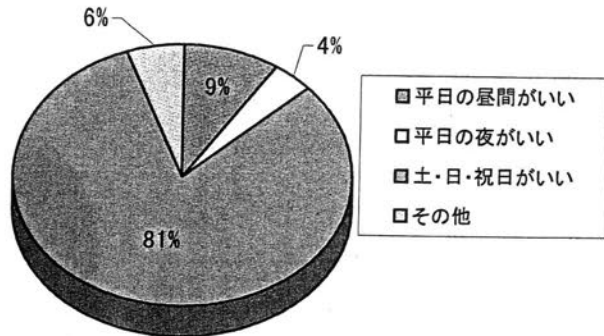
- 余野川ダムに関心があった
- 環境に関心があった
- 前回の住民対話討論会に参加した
- 前回の住民対話討論会に参加できなかった
- どのような会なのか関心があった
- 発言者に応募していた
- 発言者の知人だから
- その他

Q3.住民対話討論会の運営に関するご意見を以下から選んでください。

3-1.実施する曜日と時間について

有効回答数 54

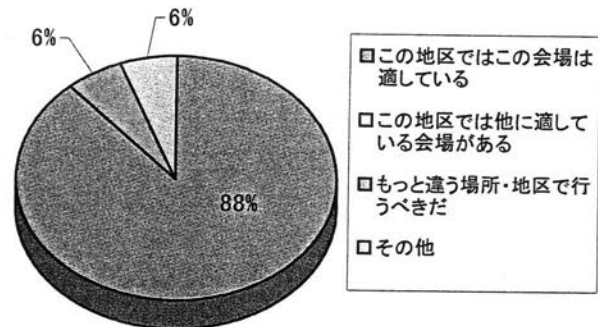
平日の昼間がいい	5
平日の夜がいい	2
土・日・祝日がいい	44
その他	3
無回答	1
合計	55



3-2.実施場所・地区について(複数回答あり)

有効回答数 52

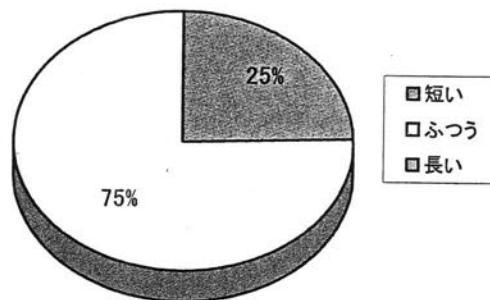
この地区ではこの会場は適している	46						
この地区では他に適している会場がある	0						
もっと違う場所・地区で行うべきだ	3						
(<table border="0"> <tr> <td>・細河会館</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>・川西市民会館</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>・川西市</td> <td>1</td> </tr> </table>)	・細河会館	1	・川西市民会館	1	・川西市	1	
・細河会館	1						
・川西市民会館	1						
・川西市	1						
その他	3						
(<table border="0"> <tr> <td>・川西でもしてほしい</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>・交通の便のよい場所</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>・記入なし</td> <td>1</td> </tr> </table>)	・川西でもしてほしい	1	・交通の便のよい場所	1	・記入なし	1	
・川西でもしてほしい	1						
・交通の便のよい場所	1						
・記入なし	1						
無回答	4						
合計	56						



3-3.住民対話討論会での討議時間について

有効回答数 53

短い	13
ふつう	40
長い	0
無回答	2
合計	55

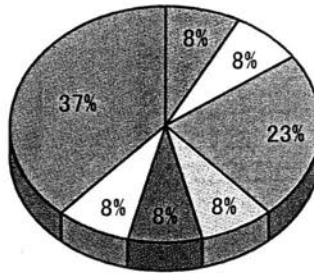


第2回 住民対話討論会 アンケート結果

短い・長いと思われる方にお尋ねします。どのくらいの時間が適切だと思われていますか。

有効回答数 13

討論だけで180分	1
240分	1
300分	3
1日	1
10日間	1
5回くらい	1
記入なし	5
合計	13

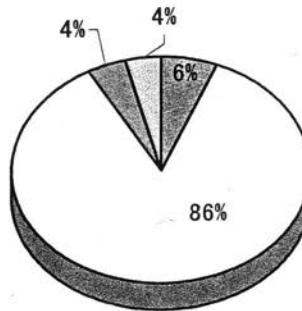


- 討論だけで180分
- 240分
- 300分
- 1日
- 10日間
- 5回くらい
- 記入なし

3-4. 発言者の人数について

有効回答数 50

多すぎる	3
適当である	43
少なすぎる	2
その他(人程度)	2
無回答	5
合計	55

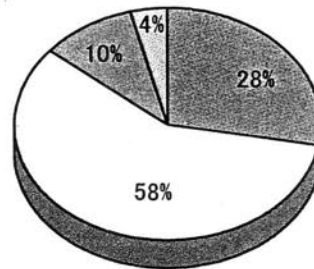


- 多すぎる
- 適当である
- 少なすぎる
- その他(人程度)

3-5. ファシリテーターを介して討論会を行う方式について

有効回答数 50

大変満足している	14
やや満足している	29
やや不満である	5
大変不満である	2
無回答	5
合計	55

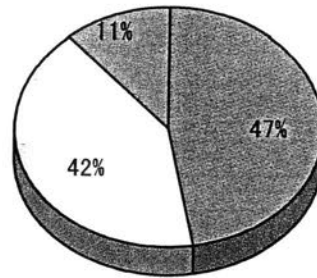


- 大変満足している
- やや満足している
- やや不満である
- 大変不満である

Q4. 今回の住民対話討論会について

有効回答数 53

有意義だった	25
まあまあ有意義だった	22
有意義ではなかった	6
無回答	2
合計	55

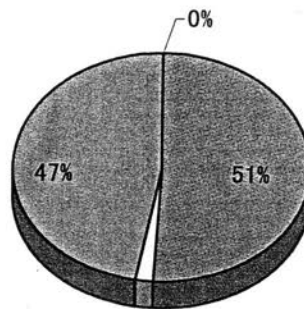


有意義だった
 まあまあ有意義だった
 有意義ではなかった

Q5. 今後このような住民対話討論会があった場合、参加したいと思われませんか

有効回答数 53

是非参加したい	27
参加したいと思わない	1
テーマによって参加したい	25
その他	0
無回答	2
合計	55



是非参加したい
 参加したいと思わない
 テーマによって参加したい
 その他

「余野川ダムについて」の住民対話討論会ファシリテーター
摂南大学工学部教授 澤井健二

① 河川管理者から依頼されたファシリテーターとしての役割について

様々な意見をもつ住民の方々がお互いに率直な意見を交換しあえるよう、中立の立場で聞き手として討論会を進行し、その結果を河川管理者に報告する。

その場合、必ずしも合意の形成に向けてリードする必要はない。

討論会の日程、会場、討論会の形式、発言者・傍聴者の募集方法、発言希望者の中からの実際の発言予定者の絞込みについての助言。

② 住民対話討論会の運営に際してどのような手法が必要と考え、実際どのような進め方をしてきたか。

1) 討論会の回数と日程

合意形成をはかるには、何回もの討論会を開く必要があると考えられるが、今回は、様々な意見を聞くのが目的であることから、当初の計画としては、討論会の回数は1回とし、そこで時間が足りないようであれば、適宜追加していくこととした。

ファシリテーターの依頼を受けたのが11月であったため、準備に必要な期間等を考え、討論会の開催日は1月25日(日)、会場はダム予定地に比較的近い箕面文化センターとした。しかし、当日の討論時間では、十分な意見を聞くことができず、2月14日(土)に2回目の討論会を開催することになった。2回の討論会で十分な議論ができたとは言えないが、意見の種類としては、概ね出揃ったように思われ、新たな情報提供がない状態ではこれ以上討論を続けても進展がないと判断して、討論会は2回で終了することにした。

2) 討論会の時間と発言者数、討論形式

1回の討論会の時間としては、3時間程度が適当であり、その中で身のある討論をしようとするれば、発言者の人数は数人が適当である。より多くの方に発言していただくことすれば、グループ討論を行なうことも考えられるが、その場合、グループ内での討論は深まるが、グループ間で意見交換がしにくく、また、傍聴者も全体像をつかむことが困難となるので、今回はグループには分けず、円卓方式をとることとした。

3) 発言希望者の募集と発言予定者の絞込み

約1ヶ月の発言希望者募集期間中に20名の意見が提出され、その内18名が発言希望であったが、この中から8名の方に発言をお願いすることにした。8名の選定にあたっては、提出された意見内容、在住地、性別、年齢、所属等を考慮して、できるだけ多様な意見が聞けるよう配慮した。発言希望者18名のうち、概ね3分の2がダム計画に反対、3分の1が賛成の意見をもっておられるようであったが、討論会ではなるべく多様な意見を聞くという趣旨から、賛成意見と反対意見の発言者が同数になるよう配慮した。できれば発言者の年齢も幅広く選びたかったが、結果的には50代、60代に集中した。

なお、2回目の討論会に際しては、発言者を新たに募集することはせず、1回目と同じメンバーで行なった。

4) 座席の配置と発言順序

傍聴者のことを考えれば、発言者の顔が見えるよう、パネルディスカッションのように、発言者が傍聴者の方を向いて座るのが望まれるが、討論する者にとっては、お互いの距離が近く、顔が見える円卓形式が話をしやすく、今回は円卓形式を採用した。ただし、どの

席に誰が座っているかがわかるよう、傍聴者には円卓の座席表を配布した。発言者の着席位置は概ね賛成意見の方と反対意見の方が交互に並ぶように配慮した。

1回目の討論会では、最初に河川管理者である猪名川総合開発事務所から、パワーポイントを用いて整備計画（基礎原案）の概要を説明してもらい、そのあと、着席順に発言者に数分ずつ意見を述べてもらい、休憩をはさんで、今度はテーマごとに自由な順序で意見を述べてもらった。テーマとしては、主として治水、利水、環境、財政が挙げられたが、1回目の討論会では利水と治水の一部で時間切れとなった。

2回目の討論会では治水の続きと地域の活性化に議論が集中し、すべてのテーマについて十分な意見が交換されたとは言えないが、同じ意見が繰り返し述べられるようになり、このまま続けても進展が期待できない状況であると判断した。

③ これまでの住民対話討論会に関わる評価（効果や問題点等）

いろいろな意見をもった住民の方が直接に意見を述べ合う良い機会であった。

発言者を8人に絞り、円卓形式で進めたのは、議論を深めるとともに、傍聴者にもわかりやすかったのではと評価される。しかし、希望がありながら発言できなかった方にとっては物足りなかったであろう。また、休憩時間に傍聴者からの意見をアンケートで集めたが、記入時間やタイミングの関係上、十分な意見が書けなかった恐れがあり、また、せっかく意見をいただいても、ファシリテータの力量不足で、それを即座に理解して討論に反映させることができなかった。

討論会の性格上、傍聴者からの発言を求めることも必要であったかも知れないが、1回目の討論会ではそれができなかった。2回目の討論会では、1度だけ傍聴者からの発言を促したが、時間やタイミングが悪かったのか、発言はなかった。

また、今回の討論会では、河川管理者や流域委員の方にほとんど発言の機会がなかったが、今後討論会を再開することがあれば、発言者の質問等に応じて、その場で受け答えしていただくのがよいであろう。その場合、発言者の数を8人から若干減らしてもよいように思われる。

④ 住民対話討論会を進めるにあたっての今後の課題

今後は、発言者が単に自分の意見を述べ合うだけでなく、合意の形成に向けて努力していく必要がある。そのためには、さらにテーマを絞り込んで、深い議論を重ねることが必要であり、テーマ別にグループ討論を行なうことも有効であろう。

また、必ずしも一堂に会した討論会の形式にこだわらず、インターネットを介した電子討論も可能であり、適宜組み合わせではどうであろうか。

いずれにせよ、次の討論会を開くにあたっては、ファシリテータの選定も含め、発言者、討論形態のすべてにわたって、見直してはどうであろうか。

また、前回の討論会では、発言者の用意された資料や説明がわかりづらい場合もあったが、これは、事前に資料を提出してもらったり、場合によっては専門家に補助をしてもらってはどうか。

なお、発言にあたっては、お互いの感情を害さないよう、言葉使いに気をつける必要がある。また、1回の発言をあまり長くすると、他の方に迷惑をかけるだけでなく、焦点がぼやけるので、簡潔にまとめて発言していただく必要がある。

余野川ダムについての住民対話討論会

総 括 報 告

平成 16 年 12 月

猪名川総合開発工事事務所

目 次

1. 開催概要.....	1
2. 実施内容.....	2
(1) 発言者の募集・選定方法等について.....	2
(2) 事前のヒアリングと打合せについて.....	2
(3) 討論会の配置及び進行等について.....	2
(4) 討論会の配付資料.....	3
(5) 河川管理者の説明.....	3
3. 討論での主な意見.....	4
(1) 利水について.....	4
(2) 治水について.....	5
(3) 環境について.....	8
(4) 地域振興について.....	9
(5) その他.....	10
4. 淀川水系流域委員会委員の意見.....	11
5. ファシリテーターのコメント.....	12
6. 発言応募数及び当日の発言者数.....	14
7. 事前申込みの傍聴者数及び申込み方法.....	14
8. 座席配置図.....	14
9. 住民対話討論会に関するアンケートの結果.....	15
10. 第1回～第4回住民対話討論会の実施概要.....	19

余野川ダムについての住民対話討論会総括報告

ファシリテーター 澤井 健二

平成 15 年 1 月 17 日に、淀川水系流域委員会より「新たな河川整備をめざして」と題した提言を受け、国土交通省近畿地方整備局では「河川整備計画」の策定作業に取り組んでいます。その一つとして、猪名川総合開発工事事務所では、余野川ダム計画の見直しのための調査・検討を行っています。

平成 16 年 6 月 22 日の流域委員会では、余野川ダムにおける調査・検討の中間報告を行い、その後も調査・検討を進めつつ淀川水系流域委員会に報告を行っています。それらの内容について平成 16 年 9 月 5 日（日）、及び同 11 日（土）に「余野川ダム計画に関する説明会」が開催され、地域住民の皆様への説明が行われました。

住民対話討論会については、余野川ダムに関して、いろいろな意見をお持ちの方が一同に会してお互いに率直な意見を交換しあう場として、平成 16 年 1 月 25 日（日）、及び同 2 月 14 日（土）に一度開催しましたが、さらに住民間の率直な意見交換が必要であったため、第 3 回、第 4 回となる「余野川ダムについての住民対話討論会」が、平成 16 年 10 月 3 日（日）、同 10 日（日）の 2 週にわたって開催されることとなりました。

討論会は、余野川ダムについての「利水」「治水」「環境」「地域振興」という 4 つのテーマに沿って行われ、賛成、反対、或いは新たな提案など多数の意見が出され、会場の傍聴者を含めて活発に展開されました。

以下、第 3 回、第 4 回住民対話討論会についての総括報告を行ないます。

1. 開催概要

- ◆ 開催日時：平成 16 年 10 月 3 日（日）14:00～16:30
開催場所：アステ川西 6F アステホール
参加者数：発言者 8 名・*ファシリテーター 1 名
河川管理者 5 名・流域委員会委員 3 名
一般傍聴者 63 名 合計 80 名

- ◆ 開催日時：平成 16 年 10 月 10 日（日）14:00～16:30
開催場所：箕面市立東生涯学習センター 2F 大会議室
参加者数：発言者 8 名・*ファシリテーター 1 名
河川管理者 5 名・流域委員会委員 4 名
一般傍聴者 43 名 合計 61 名

※ ファシリテーター

澤井健二 摂南大学工学部環境システム工学科 教授

2. 実施内容

(1) 発言者の募集・選定方法等について

- ① ホームページ、新聞折り込みチラシ等により発言者の募集を行いました。
折り込みチラシは、猪名川流域6市2町（箕面市、池田市、豊中市、川西市、伊丹市、尼崎市、豊能町、猪名川町）で554,450枚を配布。
- ② 発言希望者には、事前の余野川ダム計画に関する説明会（9月5日・9月11日の内いずれか）に参加いただき、意見書の提出をお願いしました。なお、意見書には、猪名川流域の「治水とダム」、「環境とダム」、「利水とダム」、「その他」について記述をお願いしました。
- ③ 提出された意見書は15通（討論会での発言は希望しない1名を含む）。
- ④ 1回の発言者数を8名とし、賛成意見と反対意見の人数が同数になるよう、また2回に渡って参加していただく方針のもとに、ファシリテーターが発言者を選定。その結果、1、2回とも発言していただいた方が4名、どちらか一方の討論会だけ発言いただいた方が4名で、この中に前回（平成16年1月、2月）の討論会の発言者が3名含まれていました。
- ⑤ 発言者の構成について、今回女性の発言者は1名、最年少者は47歳（男性）で、前回の討論会とおおむね同じとなりました。また、市会議員等の参加についても前回同様、選定の制約条件とはしませんでした。

(2) 事前のヒアリングと打合せについて

- ① 今回、9月29日（水）池田市立文化会館小会議室に於いて、ファシリテーターが発言者と個別に会い、発言要旨のヒアリング（一部の発言者は後日電話で）を行なうとともに、必要に応じて発言のための補助資料作成の支援を行いました。
- ② 当日の打合せでは、発言者同士の顔合わせを行なうとともに、できるだけ同種の意見が重複せず、特徴ある意見を述べるよう協力を求めました。

(3) 討論会の配置及び進行等について

- ① ファシリテーターを中心に発言者が「ハの字型」になるようテーブルを配置し、傍聴者席から全ての発言者の顔が見えるようにしました。（8. 座席配置図 参照）
- ② 発言者には、一人の発言が長くならないよう、タイムキーパーを置き時間の経過を知らせるようにしました。
- ③ ファシリテーターの経緯説明後、河川管理者から調査検討内容の報告、発言者の意見表明の順に討論会を開始しました。
- ④ 傍聴者には、発言希望用紙を配布し休憩時間に意見を提出いただいたうえで、ファ

シリテーターからの指名で発言をお願いしました。また、討論の進行に応じて河川管理者にも随時、質問等に応じてもらいました。

- ⑤ 淀川水系流域委員会委員には、討論の最後に発言をお願いしました。

(4) 討論会の配付資料

- ① プログラム
- ② 余野川ダムについての住民対話討論会 意見書
- ③ 余野川ダムについての住民対話討論会 別添資料①, ② (発言のための補足資料)
- ④ 余野川ダム計画に関して「みなさんの声」
～これまでに開催された意見交換会、住民対話討論会の会場でいただいた意見やメール、ファックス、郵便などで送られてきた意見の一部を紹介した冊子～
- ⑤ 「余野川ダム計画に関する説明会」以後にいただいたご意見・ご質問
- ⑥ 河川管理者説明資料
- ⑦ 発言希望用紙 (当日の傍聴者で発言を希望者が記入、提出する用紙)
- ⑧ 余野川ダムについての住民対話討論会に関するアンケート用紙
- ⑨ 余野川ダム計画についての意見記入用紙
- ⑩ 座席表
- ⑪ 10/3 に行われた討論会の概要
10/3 の討論会の経過を説明したファシリテーターの資料、10/10 に配布
- ⑫ 発言者提供資料 (発言者の補足資料、10/10 原稿持参、コピー後配布)

(5) 河川管理者の説明

【猪名川河川事務所の説明】

- ① 猪名川の直轄区間の流下能力について
- ② 堤防強化について

【猪名川総合開発工事事務所の説明】

- ① 余野川ダムの当初計画について
 - ・事業経過
 - ・当初計画
 - ・事業費
 - ・工事の進捗状況
- ② 余野川ダム計画の調査検討について
 - ・調査検討の経緯
 - ・調査検討の内容について

3. 討論での主な意見

討論の中で出された主な意見等の要約は以下のとおりです。

(1) 利水について

●賛成意見（必要論）

〔発言者の意見〕

- ⇒ 平均的には水余りが生じているとしても、上流域では現に取水制限が頻発している。さらに長期的視野に立てば、気候の変動や地域経済の将来展望を考慮して、水を確保すべきである。
- ⇒ この地域は近畿全体の歴史の中で重要な位置を占め、総合的な地域開発の一環として取り組むべきである。
- ⇒ 北摂は濁水経験が非常に多く、歴史的に考えて水の確保について苦労している。流域全体が運命共同体として、水源を複数確保しないといけない。
- ⇒ 国家の戦略は少なくとも中長期の展望をおさえる必要がある。右肩上がりの時代が終わったといっても、このままでいいとは思っていない。特にダムをつくるという問題は、国家的な戦略として位置付けされる必要がある。

〔傍聴者の意見〕

- ⇒ 最近の水余りは、大量の水を使う企業の国外移転に起因している。水は国力の指標であり、ストックが必要である。琵琶湖だけに頼らず、流域内に分散させることが必要であり、その意味で余野川ダムは必要である。

●反対意見（不要論）

〔発言者の意見〕

- ⇒ 正式な手続きは完了していないといしても、余野川ダムの当初計画における利水者である箕面市や阪神水道企業団で、撤退の動きが見られる。その代替水源としては、大阪府営水道などが期待できることから、余野川ダムは不要である。
- ⇒ 余野川ダムの当初計画における費用負担割合は、治水が7割、利水が3割で、利水のうち9割が阪神水道企業団（尼崎市、西宮市、芦屋市、神戸市）、1割が箕面市になっていた。しかし、阪神水道企業団における過去10年間の最大日給水量は97万5000トンで、現在すでに取得済みの水利権（日量119万トン余）の82%に過ぎず、1人あたりの水需要もどんどん減っているため、今後水需要が伸びる可能性はあまりない。その意味で、水利権については阪神水道企業団の撤退はほぼ確実で、あとは国交省との交渉のみ。
- ⇒ 濁水といえはすぐダムという発想があるが、節水や再利用を図るべきだ。それには、

水の値段を上げたらよい。

- ⇒ 数年前、濁水だったから箕面から池田を伝って水を供給するという話があったが、本当に一庫の水が足らなかったのか。ダムに操作に問題があったのではないか。
- ⇒ 水源を複数持つということは大事であるが、それがダムかといったら、それだけではない。たとえば地下水がもう少し確保できないか。そのためには山をどうしていくのか。
- ⇒ 複数水源や余裕をもって貯めるというのは結構なことであるが、それは高度経済成長の時代のことであって、いまそんなことができる財政状況ではない。

●その他（要望等）

〔発言者の意見〕

- ⇒ 国土交通省は、いつまでも精査・検討中とばかり言わずに、情報をきっちりと精査・検討して部分的にでも結論を出していただきたい。

(2) 治水について

●賛成意見（必要論）

〔発言者の意見〕

- ⇒ 今年の7月に発生した新潟の豪雨災害では、ダムによって災害をなくすことはできなかったが、ダムがなかったなら、はるかに大きな災害が生じていたであろう。
- ⇒ 猪名川においても、余野川ダムができれば、仮に破堤や越水が生じたとしても、その発生時刻を遅らせることにより、避難のための時間的余裕が生まれる。
- ⇒ 特に猪名川下流部で今後予想される超高齢化社会においては、避難のための時間を確保することが重要である。
- ⇒ 地元（止々呂美）では、今回の台風で橋のすぐ近くまで水が来た。このくらいの台風でこれくらい水量が増えるようでは、本当に大きい洪水があったときにどうにもならない。ぜひダムを建設してほしい。
- ⇒ 護岸工事でセメントを使うと、魚が死んでしまうが、ダムがあれば、護岸工事がなくなる。
- ⇒ 欧米の先進国では、すでに1回/1,000年で整備が進められようとしている。中国でさえ黄河は1回/1,000年で整備するとの目標を立てている。都市河川の猪名川が、いまだ1回/50年にも満たないというのは、非常に危険な状態である日本の治水整備の水準は、後進国であるとの認識が必要であり、治水はどんどん進めるべきである。また、それだけの効果はある。

〔傍聴者の意見〕

- ⇒ 水害補償に重点をおくべきという意見があったが、物的被害は補償で解決できても人命は補償で解決できない。

●反対意見（不要論）

〔発言者の意見〕

- ⇒ 一庫ダムあるいは余野川ダムの集水域が猪名川流域全体に占める割合が小さいため、本川下流域に対する治水効果が小さい。
- ⇒ 多田地区の治水に対しては、余野川ダムを造らなくても、一庫ダムの操作法を変えることによって対応できるのではないか。
- ⇒ 200年に1回の確率で生じるであろう規模の洪水に対してだけの貢献を考えるのは不適切ではないか。
- ⇒ 余野川ダムの建設には平成15年度までに380億円がすでに使われており、完成までには更に470～480億円かかると聞いている。この財源を堤防強化に回せば、例えば1mに100万円かかったとして、48kmの堤防強化ができることになる。

〔傍聴者の意見〕

- ⇒ ダムを作ってもそれを超える洪水の生じる確率はあるので、安心はできない。

●その他の意見

〔発言者の意見〕

- ⇒ 洪水被害に対して、税金や保険で公的に補償する制度を考えてはどうか。その方がダムよりもコストが安いのではないか。そういう対策を先に考えることが大切。
- ⇒ 命はどうするんだという話は、当然治水対策、防災対策をとるべき。ただ、その手段として、ダムなのかどうかということを議論している。
- ⇒ 余野川ダムは猪名川下流の治水安全度を高めるためにつくるのであって、地元の治水のために直接的に論じることはできない。
- ⇒ 治水だけでなく、上流地域、特に山間部の市町村が、基本的な行政の課題として治山にもっと配慮しなければならない。
- ⇒ 余野川ダムが中止になった場合、導水トンネルにもう少しお金をかけて、洪水をバイパスさせて集落を通らないようにしてはどうか。

〔傍聴者の意見〕

- ⇒ 新潟と福井の水害に対して、決壊した堤防に視線が集中しがちだが、調べなければならないのは、もっと上流ではないか。被害が拡大したのは、上流のダム群が豪雨に耐え切れずに放流したためとの見方がある。貯水能力を超えた水が流れてくれば、

ダムは決壊を防ぐために水門を開けるしかない。ならば、ダムに十分な貯水能力があったのか、また、上流の山林に十分な保水能力があったのか、検証が欠かせない。

国土交通省に任せているのは過去のダム依存の失敗は棚上げされ、より大きなダムや堤防をつくる計画しか生まれない。それから解放されるには、流域住民と自治体が協力して代替案をつくることだ。(以上は7月28日の朝日新聞夕刊よりの抜粋)

⇒ ダムは超過洪水のときには凶器になって、下流にダム災害を引き起こす。治水・治山を含めた総合治水こそ、長期的な重要な課題である。ハード対策とソフト対策を含めた治水マネジメントを検討いただきたい。

●質問に対する河川管理者の回答

〔発言者の質問〕

Q1. つい先般、大阪府に上陸した台風21号のもたらした大雨の際、一庫ダムは一体どのような効果を発揮したのか。

【河川管理者の回答】

多田地点で流量が毎秒約300トンを超えると氾濫を起こすので、その上流の「虫生」地点の流量が300トンを超えないように、9月29日午後10時過ぎからダム運用規則の16条を適用して、ダム放流量を毎秒77トンから毎秒20トンまで落とした。その結果、ダムの水位は制限水位を超して、45万 m^3 の水を貯留した。その後、猪名川本川の流量が低減していくのに合わせて、9月30日午前0時過ぎからダムの放流量を徐々に増やし、2時過ぎからは、流入量と放流量を一致させた。その結果、多田地区の水位は、50cm弱の余裕をもって道路冠水を免れた。その後は、ダムの貯水位を速やかに低下させて、制限水位に戻す操作を行なった。

Q1. ダムを造るよりも河道の整備や堤防強化をもっと優先すべきではないのか。

Q2. ダムだけで万全な治水ができるわけではないので、早期における堤防の強化と狭窄部の段階的開削を望む。

Q3. 一庫ダムの当初計画では洪水時の放流量が毎秒650 m^3 とされていたのに、現在は毎秒150 m^3 に運用が変えられている。ダム建設と同時に堤防強化を図るべきであるのに、ダムが先行しているのは本末転倒でないか。目的が達成されていない。

【河川管理者の回答】

狭窄部の開削は下流への流量増により、破堤の危険度を増大させるため、下流の河川整備の進捗状況などを見て判断するのが原則。このため、淀川水系河川整備計画基礎案では、狭窄部の開削を原則やめることにしている。一庫ダムの治水機能の向上は、「銀橋」という狭窄部の上流対策として考えているものである。

淀川水系河川整備計画基礎案では、「水害に強い地域づくり協議会（仮称）」を設置して、「自分で守る、みんなで守る、地域で守る」対策を検討、実施することにしており、ハード面もやるが、特にソフト面でいろいろなことをせざるを得ない。

既に猪名川では、昭和 55 年度から総合治水対策協議会が発足し、みんなでこういうソフト面を実施していこうということは、整備計画基礎案に載せている（猪名川ダイジェスト版の 8 ページ）。

壊滅的な被害を防止するために堤防強化についても、推進するというのも書いているので、もう少し基礎案を見ていただきたい。

Q1. 猪名川の堤防のためにこれまでにかけた予算はいくらか。これからかける予定の予算はいくらかを教えてください。

【河川管理者の回答】

堤防強化ということで当面緊急を要する区間は 10 ヶ所、5km で、今年度から尼崎の善法寺に着手する。12 月頃までにこの 10 ヶ所について対策を講じる必要があるかないかを公表していきたい。残り 25km については、順次調査をしていきたい。（ダイジェスト版 10 ページ）

堤防の高さが低いところについては、18 年度を目途に整備していくことにしていますが、予算的に今皆さんの前と言えらる段階の資料は、手元には持っていない。

河道で配分する流量に対する堤防の強化をしようということで、ダムがあるなしに関係なく、いままで継続してきた。

（3）環境について

●賛成意見（必要論）

〔発言者の意見〕

- ⇒ 猪名川流域 383km²、山林は 220km² で、ダムそのものは 1% 未満で影響は少ない。
- ⇒ 自然の治癒力は大きく、開発による環境の喪失は一時的なものであり、やがて回復し箕面ダム同様新たな好ましい環境が生まれる。
- ⇒ 自然を守るということと、地元の暮らしを守るということには、対立する要素が多く、地元では自然を守ることを目的としてきたのではなく、生活の手段として山林や農地を利用してきたことが結果的に自然を残すことになったに過ぎない。
- ⇒ ダム建設による水質の悪化は、技術力である程度カバーできる。
- ⇒ ダムによる洪水の減少は、人間にとってだけでなく、魚にとっても棲みやすい環境を造りだす。

⇒ 地元では、荒れた山を無くすために、一生懸命、植林をやっている。そんな状況を全然把握されてないと思う。

●反対意見（不要論）

〔発言者の意見〕

- ⇒ 余野川ダム計画地域が大阪府さらには関西における貴重な自然の残された場であり、そのかなりの部分を開発するダム計画或いは都市開発計画は不適切である。
- ⇒ 余野川ダムと「水とみどりの健康都市」等、それに関する事業地（二次林、人工林を含め）は、箕面市の森林面積（2,800ha）の14%も破壊する。
- ⇒ 湛水域と止水域の出現、連続性の分断による生態系（採餌場所・移動ルート等）への影響が大きい。
- ⇒ シカが降りてくるようになった原因は、個体数の増加にもあるが、基本的には山の開発行為にあるのではないか。ダムや健康都市ができれば、もっとひどい状況になるのではないか。

●その他の意見

〔発言者の意見〕

- ⇒ 止々呂美では、鹿がユズの葉を全部食べてしまう。その防止に金網を設置しているが、多額の金を使っている。何が自然保護か。皆さん、一回止々呂美へ来てほしい。
- ⇒ 余野川ダムの上流にダイオキシンの処理施設をつくろうかという話もあったが、それもようやく消えた。この流域に治山治水を考え、環境を考える上で、鉱山の問題は絶対に見落としてはならない。清掃工場を作るために、18万m³の土を鉱山跡で動かせば、猪名川流域100万人の水道の水源に危険をもたらす。

(4) 地域振興について

〔発言者の意見〕

- ⇒ 地元の止々呂美地区では、当初ダム建設に反対であったが、公益的視点から、当時の建設省の提案を受け入れた。その後はダム建設を前提にした地域の将来ビジョンを描き協力してきた。今さらダム建設中止ということにでもなれば、信義に反する行為である。過去の経過を十分に考慮し、速やかに事業を再開し一刻も早くダムを完成させることを強く要望する。
- ⇒ ダムが必要とか不必要というのではなく、ダムなしでどうやってここで生きていくかということをも市民団体なり何なりで知恵を出し合ったらどうか。
- ⇒ ダム計画は本当に地元に住む方たちの自発的な案なのだろうか。本当にそこに生き

る、いま生きている人が、もし昔よかったならば、昔よかったところへ戻ればいい。今非常に大変な思いをしているなら、その大変な思いをどうやって解決していくのかを、ゼロから出したらいいのではないか。

- ⇒ 止々呂美の里山は、里山保全のモデル研究ゾーンにして、環境との共生で整備をすべきである。
- ⇒ 自然環境の維持や里山の観光化や保全の研究等で、経済システムが成り立つように整備すべきである。
- ⇒ 都市部の住民との交流の場の企画などを、行政の責任で行なうべきではないか。
- ⇒ 里山は全国に600～700万haあるが、同じような悩みで課題が山積している。
- ⇒ ダム以外に「水とみどりの健康都市」と出ていたが、「水とみどりの健康都市」はまだ仮換地もされていない。地権者のことまでとやかく言われる筋合いはない。
- ⇒ 鳥取県の中部ダムは、22戸が水没予定地にあり、地域の振興ができなかったにもかかわらず、第三者機関、鳥取大学の学者が中心になって、再検討・再評価をし、ダムの当初予算が230億円に対し、河川改修、護岸事業なら78億円ですむという結論が出た。利水の緊急性がなくなってしまったことは、余野川ダムと一緒にである。沿川住民へのアンケートでは、早くダムを建設してほしいが3分の1、中止してほしいが3分の1、その他が3分の1で、賛否が拮抗している中で、早く結論を出してほしいという人が多かったということで、知事の行政判断として、2000年に未着工で中止となった。この後、知事がすごいのは、地域振興のために十何回も会議をして、個人補償はするものでないが、地域の振興のためにといて、県の予算を投入していくことを進めている。
- ⇒ この地域でも、国土交通省も箕面市も大阪府も一緒になった地域振興の協議会はできると思う。
- ⇒ 昔から水争いや堤を切るという争いはよくあった。上流と下流においても、どちらへ水をあふれさせるんだという話になりかねない。上流の山林の保全のためにお金がかかるのなら、下流の住民がそのために税を払うか、例えば水道料金でその分を負担するなど、別予算を突っ込むということを説得してみたい。そういうことをしていくのが政治の仕事であろう。

(5) その他

〔発言者の意見〕

- ⇒ この討論会で話題になっているテーマのいくつかは、河川法に定められた河川整備計画を作成するための議論の域を越えており、適切でないのではないか。
- ⇒ 一庫ダムの利水を余野川ダムで振り替えるという話は、余野川ダムの利水の撤退が

始まったことによって、あわてて余野川ダムを作る理由づけをしたとしか考えられない。そのような形の住民に対する説明やごまかしは、新たな河川法の精神に真っ向から反する。国交省は十分な資料を提供して、もっと丁寧にありのまますを説明して、住民と議論する態度をもってほしい。

⇒ みどりが破壊された後、その地域の温暖化が進む。箕面市だけで 5,000~6,000 戸の空き住宅が存在するのに、なぜ開発を行なうのか。

〔傍聴者の意見〕

- ⇒ ダム建設には多額の費用を必要とするが、一体、誰がそれを負担するのか。
- ⇒ 地元では、中止であれ、造るのであれ、早期で解決をお願いしたい。それによって、我々の地区がどうやっていくのかということも決めていかねばならない。
- ⇒ 我々の苦しみとか不便性、或いはそのためにいろんな河川工事の遅れもある。そういったものに対する補償も検討していきたい。
- ⇒ こういった住民討論会で、市会議員が入られているのはいかがなものか。
- ⇒ 淀川流域委員会はいずれ答申というか、いずれかに方向を定められると思うが、その時は猪名川部会の委員一人ひとりの意見をレポートして公開していただくことを約束願いたい。

4. 淀川水系流域委員会委員の意見

【10月3日にあった意見】

いま私たちも治水や利水の問題、代替案の問題を考えて、任期が終わるまでにはきちと結論を出し、意見をまとめたいたいと考えている。きょう実際に皆さんの議論を聞かせていただきました。ダムワーキングが明日ありますので、その中で活かしながら、意見をまとめていきたいと思っている。

流域委員会は「ダムを反対している」とおっしゃる方もいますが、決してそういうことではなく、どういう方法があるのか、ダム以外にも何か良い方法があるのか、ということを考えながら、一番いい方法を選んでいきたいと考えているのです。

【10月10日にあった意見】

私たちは、川というものが「今のままでは、行き詰まるであろう、ここで変えなければいけない」というところから提言し、意見書を出してきた。

これまでの治水のやり方は、ある対象とする洪水については「そこまで守りましょう、それを超えたら知りません」ということであった。しかし、自然はそんなに待ってくれません。どんな洪水がくるか知りません。いかなる洪水に対しても被害を、回避・軽減しよう。回避できれば、それに越したことはない。一つの方法は堤防補強です。しかし、

いまの国土交通省が考えている堤防補強は、我々から見るとまやかしてある。つまりこれまでどおり「ある水位のところまでは耐えましょう」、しかし「それ以上のことは知りません」ということで何ら変わっていない。流域委員会は、いかなる洪水に対しても、どんな洪水がきても、何とかしていきたいと考えている。ここが決定的に違う。

ダムについて、流域委員会では、いま真剣に検討している。ここ1~2ヶ月で、ある程度の方向性を出したいと思っている。

利水は、この2000年間にわたって、我々は水を「取れるだけ取る、たくさん取るのがいいのだ」ということでやってきた。その結果、日本の繁栄がもたらされた。しかし、このままどんどん取り続けていけば、川はどうなってしまうのか。そのことから、利水についても「水需給を、一定の枠内で管理しなければならない」ということから提言が出てきた。

つまり治水にしろ利水にしろ、「いま日本の川を、大きく方向を変えなければ、これからの日本はだめになるのではないか」という危機感である。いろいろな状況の中、これからの川づくりを考えていく上で、基本的にどうすればいいのか、そのことによって個人個人には迷惑をかけることになる。この迷惑は償う必要がある。いかに償うかは、河川管理者も我々流域委員も、真剣に考えながらやっていきたいと思っている。

5. ファシリテーターのコメント

討論の時間が短くて、満身に意見が述べられなかったかもしれないが、いろいろな種類の意見が出揃ったと思われる。今後、対話討論会が継続されるかどうかはわからないが、住民の意見の表明の仕方として、ある特定の場所で、特定の人が集まってやったもので十分かという議論がある。住民意見の反映のさせ方にはいろいろな方法があり、住民投票ということもあり得るが、誤った知識に基づいて投票を行なうことは避けるべきであろう。

お互いに正しい知識を共有するように努めなければならないが、それができない場合には、知識レベルに応じて票に重みをつけることも考えるべきではなかろうか。

この討論会において、気になったことのひとつに、ダムの流量調節による治水効果への誤解による不信があるように思われる。21号台風時の一庫ダムの流量調節による洪水軽減効果は、事務所から示されたデータによると明白である。しかし、討論会の時に示されたような、短時間の映像資料による説明だけでは理解しづらく、より丁寧な説明が必要であろう。今後の改善が望まれる。

また、ダムの集水域が流域全体に占める割合が小さいからと言って、治水効果があまり期待できないというのも、誤解ではないかと思われる。河道に流れる流量の内の大部分は無害で、ある限界を超えたものが水害につながるものであり、その意味で、流域全体

に占める割合が小さくとも、上流で流量をカットすることで、下流の安全に対して大きな効果をもたらし得る。

計画規模を超えた洪水の時にダムが災害を助長するというのも、誤った解釈ではないだろうか。ダムが破壊したとか、誤った操作を行なった場合は別であるが、妥当な操作を行なう限り、洪水中に、ダムがあるために、それが無いときよりも多くの流量が流れるということはある得ないであろう。放流量を流入量よりも多くするのは、洪水の危険がさしせまる前か、洪水の危険が過ぎ去った後のはずである。

だからと言って、ダム建設を擁護するわけではなく、このようなダムによる治水効果とその限界を十分に認識した上で、環境面でのマイナスや、費用面を総合的に考慮して、是非を判断していただきたいと考えている。ダムを作るとしても、当初計画どおりの規模がよいとは限らない。利水の需要がないというのであれば、規模の縮小も視野に入れるべきであろう。

なお、まちがった認識にもとづいてなされた発言に対して、その場で反論がなかったからといって、その発言の妥当性が認められたわけではなく、発言が一人歩きしないよう、注意を要する。

また、ダムを中止した場合の地域振興策については、ダムの中止を決定した後に検討すればよいという議論もあるが、私は、ダムを建設するか中止するかの判断材料として、中止した場合の対策についてあらかじめ考えておく必要があるように思っている。

最後に、討論の進め方について、中立の立場でコメントを述べる人を配置した方がよいというアンケート回答があったが、参考にすべきであろう。ただし、その場合、討論時間をもう少し長く取る必要がある。

6. 発言応募数及び当日の発言者数

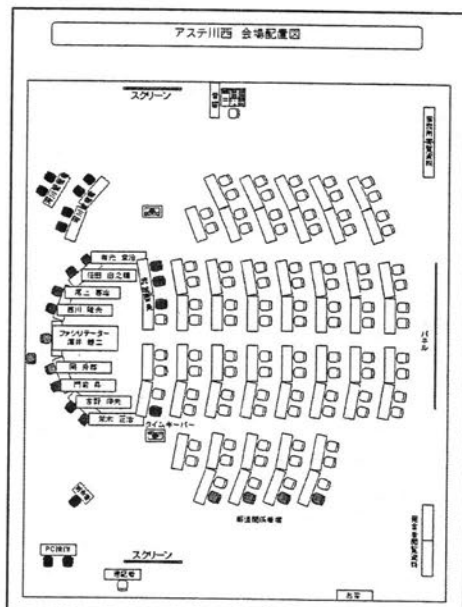
実施日	回	開催場所	発言者			備考
			応募者数	発言者数	傍聴からの発言者数	
10/3	第3回	川西会場	14	8	7	各地区の発言者数 8名の内4名は、 10/3、10/10の 両日に参加
10/10	第4回	箕面会場		8	6	
意見のみ			1			
合計			15	16	13	発言者の合計は延 べ数

7. 事前申込みの傍聴者数及び申込み方法

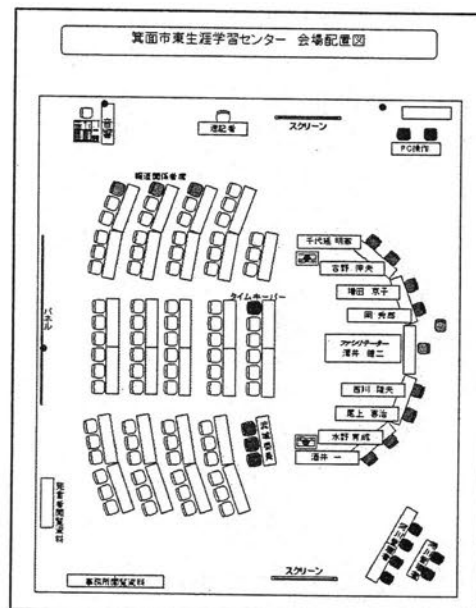
実施日	回	開催場所	ハガキ	FAX	メール	その他	合計
10/3	第3回	川西会場	6	39	28	7	80
10/10	第4回	箕面会場	1	29	22	8	60
合計			7	68	50	15	140

8. 座席配置図

第3回 川西会場 開催時



第4回 箕面会場 開催時

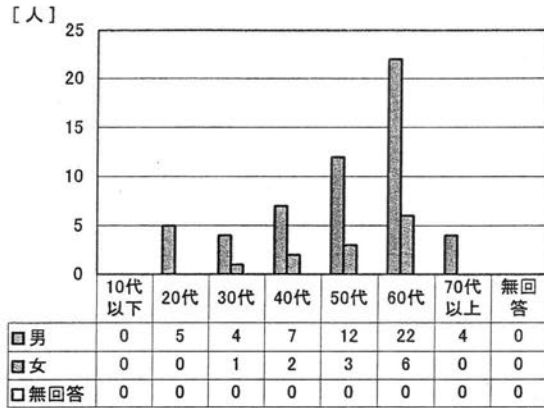


9. 住民対話討論会に関するアンケートの結果

年代・性別

回収枚数 66

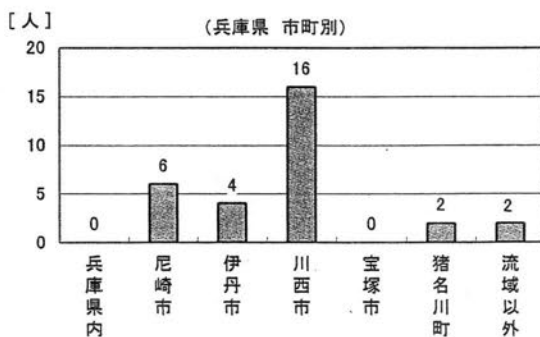
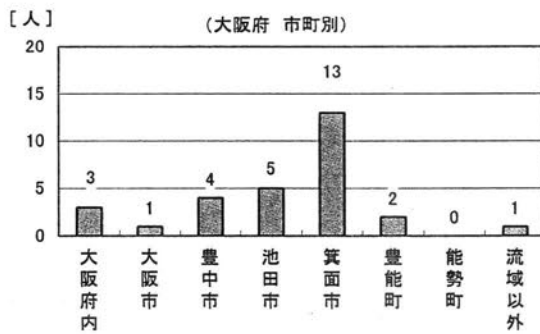
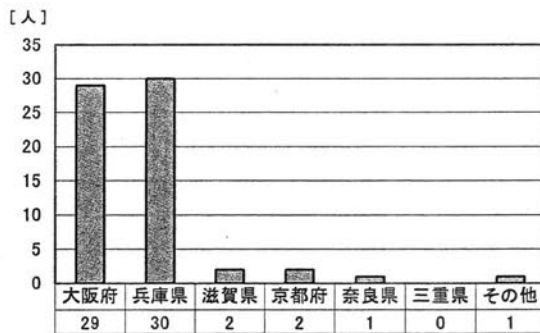
	男	女	無回答	合計
10代以下	0	0	0	0
20代	5	0	0	5
30代	4	1	0	5
40代	7	2	0	9
50代	12	3	0	15
60代	22	6	0	28
70代以上	4	0	0	4
無回答	0	0	0	0
合計	54	12	0	66



住所

有効回答数 65

大阪府	29
大阪府内	3
大阪市	1
豊中市	4
池田市	5
箕面市	13
豊能町	2
能勢町	0
流域以外	1
兵庫県	30
兵庫県内	0
尼崎市	6
伊丹市	4
川西市	16
宝塚市	0
猪名川町	2
流域以外	2
滋賀県	2
京都府	2
奈良県	1
三重県	0
その他	1
無回答	1
合計	66



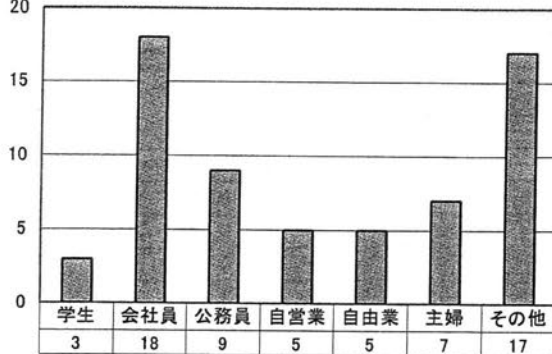
※市町別グラフの大阪府内・兵庫県内は流域内市町に印がなかったものです。

職業

有効回答数 64

学生	3
会社員	18
公務員	9
自営業	5
自由業	5
主婦	7
その他	17
無回答	2
合計	66

[人]



Q1.この住民対話討論会に参加いただいたきっかけを以下から選んでください。(複数回答可)

有効回答数 80

国土交通省 事務所から案内があった 21

・猪名川総合開発工事事務所	5
・猪名川河川事務所	9
・記入なし	7

流域委員会に所属する委員から紹介された 2

知人(委員以外)から紹介された 12

行政関係者から紹介された 6

自治体窓口のチラシ 3

ホームページ(近畿地方整備局 河川事務所等) 13

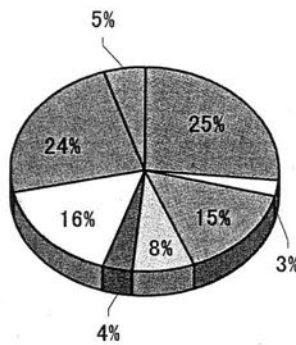
・猪名川総合開発工事事務所	1
・猪名川河川事務所	2
・記入なし	10

新聞チラシを見た 19

その他 4

無回答 0

合計 80



- 国土交通省 事務所から案内があった
- 流域委員会に所属する委員から紹介された
- 知人(委員以外)から紹介された
- 行政関係者から紹介された
- 自治体窓口のチラシ
- ホームページ(近畿地方整備局 河川事務所等)
- 新聞チラシを見た
- その他

Q2.今回の参加目的を以下から選んでください。(複数回答可)

有効回答数 96

余野川ダムに関心があった 52

環境に関心があった 23

どのような会なのかに関心があった 17

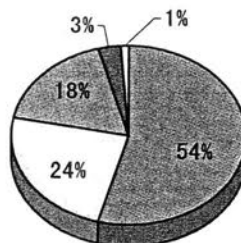
発言者に応募していた 0

発言者の知人だから 3

その他 1

無回答 0

合計 96



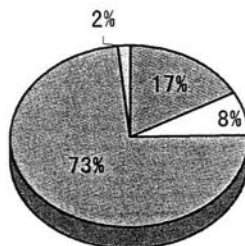
- 余野川ダムに関心があった
- 環境に関心があった
- どのような会なのかに関心があった
- 発言者に応募していた
- 発言者の知人だから
- その他

Q3.住民対話討論会の運営に関するご意見を以下から選んでください。

3-1.実施する曜日について

有効回答数 65

平日の昼がいい	11
平日の夜がいい	5
土・日・祝日がいい	48
その他	1
無回答	2
合計	67



- 平日の昼がいい
- 平日の夜がいい
- 土・日・祝日がいい
- その他

3-2.実施場所・地区について(複数回答あり)

有効回答数 64

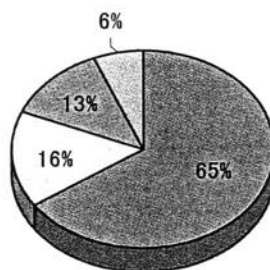
この地区ではこの会場は適している	42
この地区では他に適している会場がある	10

・尼崎	1
・箕面市内も可	1
・多田会場	1
・川西会場	3
・箕面市市役所周辺	1
・電車の駅近く	1
・記入なし	2

もっと違う場所・地区で行うべきだ	8
------------------	---

・川西・アステ	1
・川西・箕面	1
・箕面・駅周辺	1
・駅前等	1
・記入なし	4

その他	4
無回答	5
合計	69

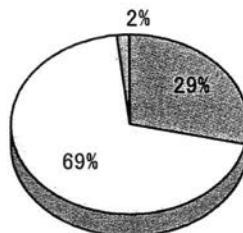


- この地区ではこの会場は適している
- この地区では他に適している会場がある
- もっと違う場所・地区で行うべきだ
- その他

3-3.住民対話討論会での討議時間について

有効回答数 63

短い	18
ふつう	44
長い	1
無回答	3
合計	66

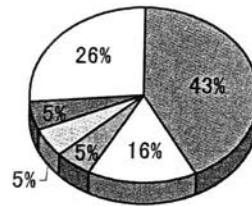


- 短い
- ふつう
- 長い

短い・長いと思われる方にお尋ねします。どのくらいの時間が適切だと思っておりますか。

有効回答数 19

180分	8
240分	3
プラス60分	1
1人5分	1
現在の倍程度	1
記入なし	5
合計	19

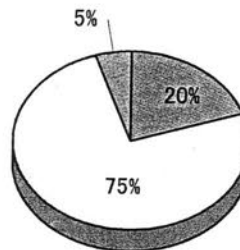


180分
 240分
 プラス60分
 1人5分
 現在の倍程度
 記入なし

3-4. 発言者の人数について

有効回答数 61

多すぎる	12
適当である	46
少なすぎる	3
その他	0
無回答	5
合計	66

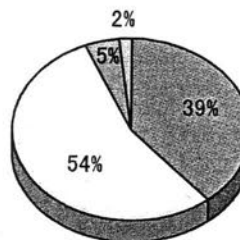


多すぎる
 適当である
 少なすぎる
 その他

3-5. ファシリテーターをおく方式について

有効回答数 62

大変満足している	24
やや満足している	34
やや不満である	3
大変不満である	1
無回答	4
合計	66

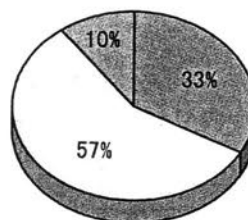


大変満足している
 やや満足している
 やや不満である
 大変不満である

Q4. 今回の住民対話討論会について

有効回答数 58

有意義だった	19
まあまあ有意義だった	33
有意義ではなかった	6
無回答	8
合計	66

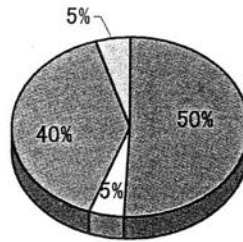


有意義だった
 まあまあ有意義だった
 有意義ではなかった

Q5. 今後このような住民対話討論会があった場合、参加したいと思われませんか(複数回答あり)

有効回答数 63

是非参加したい	32
参加したいと思わない	3
テーマによっては参加したい	25
その他	3
無回答	4
合計	67



是非参加したい
 参加したいと思わない
 テーマによっては参加したい
 その他

10. 第1回～第4回住民対話討論会の実施概要

回	実施日	開催場所	傍聴者			発言者	合計
			事前申込	当日申込	流域委員		
第1回	2004/1/25	箕面会場	70	41	6	8	125
第2回	2004/2/14	箕面会場	50	47	4	8	109
第3回	2004/10/3	川西会場	49	14	3	8	74
第4回	2004/10/10	箕面会場	31	12	4	8	55
合計			200	114	17	32	363

※発言者は延べ人数

2. ダムに関する対話討論会

2. 3 川上ダム（木津川上流河川事務所）

2. 3. 1 住民対話討論会について	1 ~ 4 3
2. 3. 2 ファシリテータとの検討会資料	4 4 ~ 6 2
2. 3. 3 木津川上流住民対話集会 提案書	6 3 ~ 7 9

住民対話討論会について

対象テーマ

- ・河川敷保全と堤防天端・河川敷の利用について(猪名川河川事務所)
- ・木津川上流域について(木津川上流河川事務所)
- ・天ヶ瀬ダム再開発について(琵琶湖河川事務所)
- ・丹生ダムについて(琵琶湖河川事務所)

平成16年5月8日

近畿地方整備局

木津川上流域について

木津川上流河川事務所

木津川上流 対話集会

第1回

意見のまとめ

概要

目次

1	対話集会の概要	1
	(1) 日時	1
	(2) 場所	1
	(3) 参加者数	1
2	対話集会参加者アンケートの結果	2
3	ワークショップで出された意見の結果	7
4	ワークショップでの意見集約および検討項目について	10
	(1) ワークショップでの各項目の集約	10
	①現在の木津川の課題（環境・治水・利水・その他）	10
	②住民として木津川をこうすればもっとよくすることができると思う点	11
	③住民対話集会をこれから進めるうえで大切な点	11
	④ダムについての意見や検討すべき点	12
	(2) 出された意見からの課題	12

1 対話集会の概要

(1)日時

平成16年3月20日(土)
13:00～16:30

(2)場所

ゆめドーム 第二競技場(上野市)

(3)参加者数

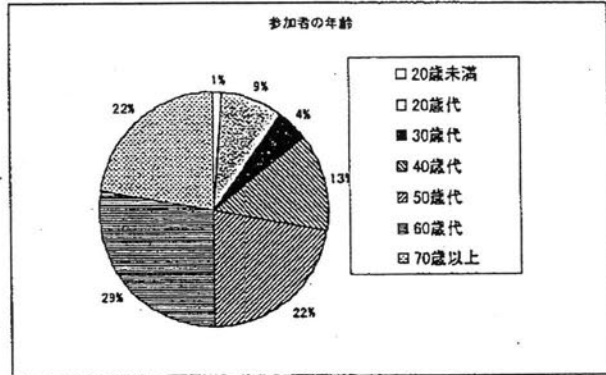
約180人

2 対話集会参加者アンケートの結果

対話集会の参加者アンケートの回答者数は91票で、参加者の約50%であった。

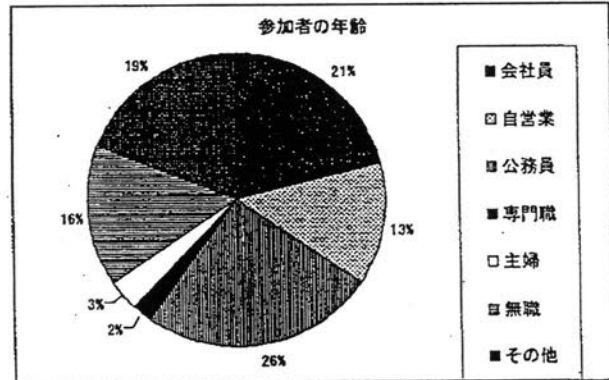
①参加者の年齢

60歳代が最も多く29%を占め、次いで、50歳代と70歳以上が共に22%で、40歳代が13%、20歳代が9%で、30歳代が4%、20歳未満が1%であった。



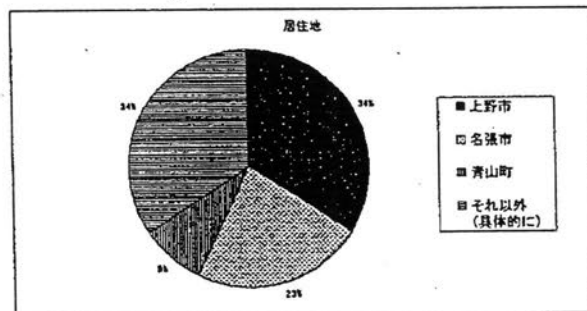
②参加者の職業

参加者の職業は、公務員が26%、会社員が21%、その他が19%、無職が16%、自営業が13%である



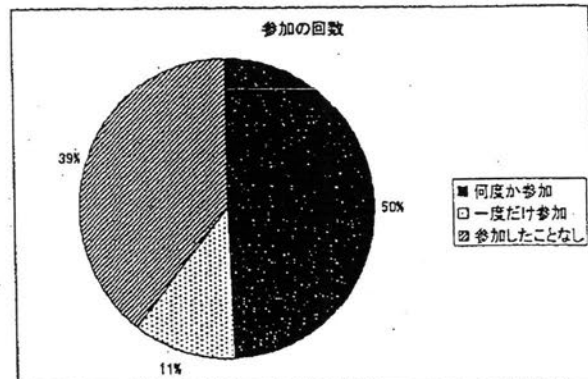
③参加者の居住地

居住地は上野市が34%、名張市が23%、青山町が9%、であった。この2市1町以外のその他の市町村が34%を占め、約1/3を占めている。



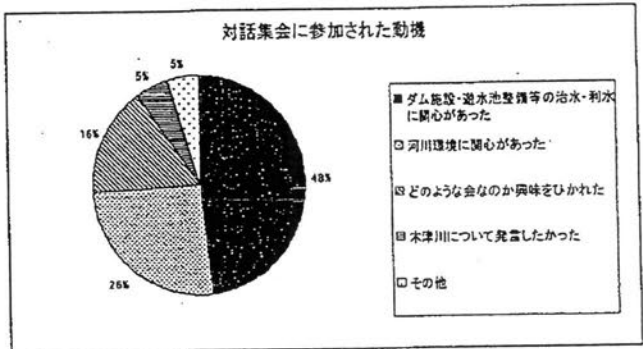
④参加回数

参加の回数は、何度か参加した人が50%を占め、次いで参加したことなしが39%、一度だけが11%であった。



⑤対話集会に参加された動機

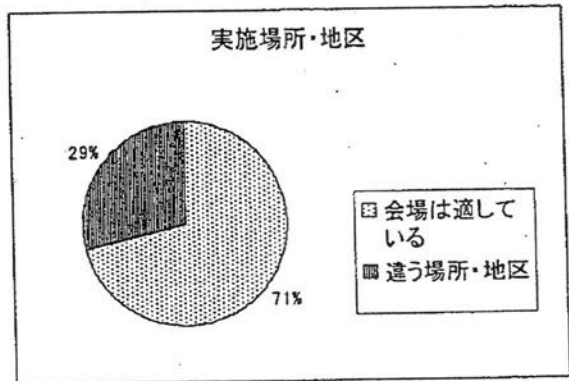
ダム施設・遊水地整備等の治水・利水に関心があったが48%と半数近くを占める。次いで、河川環境に関心があったが29%、どのような会なのか興味がかれた16%、木津川について発言したかったが3%である。



④対話集会に対する意見

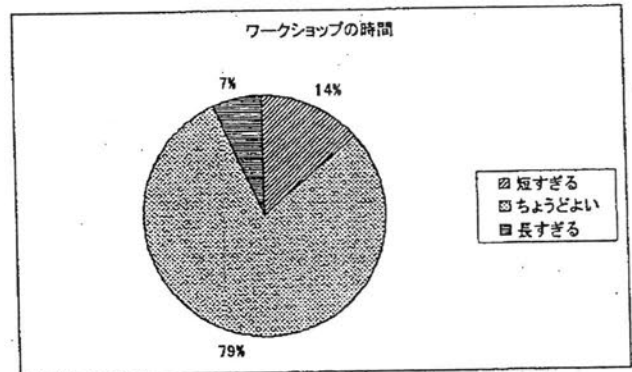
1. 実施場所・地区

会場は適しているが71%であった。



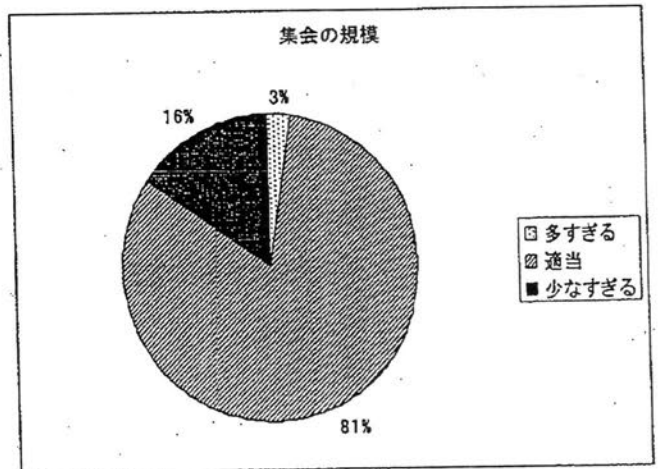
2. ワークショップの時間

ワークショップの時間はちょうど良いが79%であった。



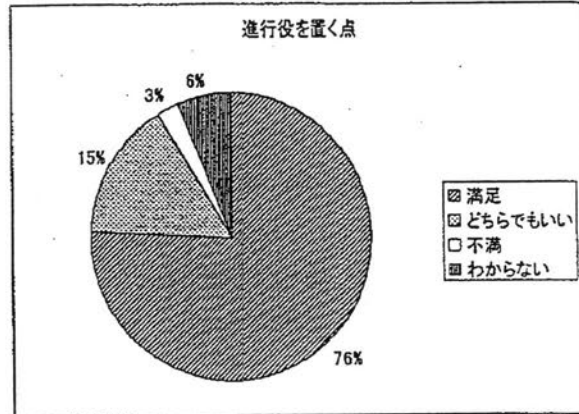
3. 集会の規模

適当と答えた人が81%である。少なすぎるが16%あった。



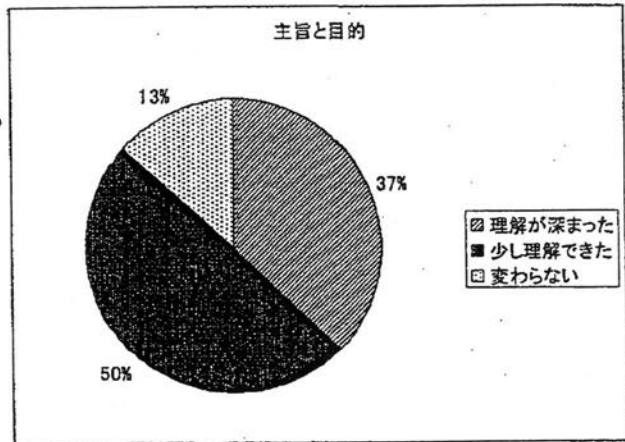
4. 進行役を置く点

進行役を置くことに満足したという人が76%、「どちらでもいい」が15%、不満は3%であった。



6. 主旨と目的

主旨と目的では、理解が深まったが37%、少し理解できたが50%、変わらないが13%である。



⑤対話集会に対するアンケートの自由意見の内容

対話集会に対する内容に自由意見は以下のものである。

- ・専門的な方がワークショップでのまとめ・進行等をしていて、理解し易い。
- ・次回も出席する方が多いと思う。事前に今日のまとめを出席者に配布して、意見の出やすい状態に心掛けて欲しい。
- ・無記名の意見が生かされるようにして欲しい。
- ・発言者がいつも同じ人が同じ事を言っている。
- ・ルールをつくり時間制限すべきである。
- ・部会をつくってやるべきだ。(一般の人には分からない)
- ・ダムを取り巻く意見は多種多様である。
- ・主な意見として、ダム建設推進、ダム建設中止の両方を同じ時間で発言させること。
- ・①大集会の場合は意見発表希望者に、当日までに小レポート(メモ程度)を

提出させることで発言権を与え、時間を2分以内とする、など効率よく進めること。②感情を抑えて冷静に議論すること。③テーマはオールラウンドに(川上ダム中心だった)。

- ・会の目的が不明確。また、各プログラムの位置づけもあいまい。(特に2名の方のプレゼンは何の為にしているのかわからなかった) 到達点が何で、今がどういう場面で、次にどうするとかが見えない。適切な意見が出ないので、「今日はお互いの意見を出しつくしましょう。それで何が同じか、違うかを整理しましょう」と宣言し、前後にそれを確認する。「次回にはこうする」とか。
- ・今の段階(計画案が出されている)で行う内容として適切だったかと疑問に思う。
- ・かなり漠然とした意見提出から、急にダムの具体的な議論になった感がある。最初か。
- ・対話の時間が短い。
- ・小・中・高校生なども参加でき、勉強・意見を聞く場にもならばな・・・と思います。
- ・木津川上流工事事務所の意見をもっとお聞かせ願いたい。
- ・所長の言い訳は必要ない。結論だけでよい。
- ・(今日の椅子では長時間すわっている事が難しい。)
- ・前もってこんな事を聞きたいと言うことを知らせておいて欲しい。この場で考えて意見を書くと言うことは、考えがまとまらない。さらに、項目別に数多くなっているが、紙が不足して思うことが言えないのと時間が不足していることも一因である。
- ・会場から直接意見を言わせるのであれば、2時間位の時間をとってやって欲しい。ダム賛成、反対の人の直接対話もできるようにして欲しい。
- ・今回の対話集会は満点に近いのでは。
- ・集約意見を参考にして次回に是非生かして欲しい。
- ・直接の利害関係者と一般住民が混在して参加しているので極論と一般論が交錯し、まとまって行くのが不安。
- ・相互理解が深まる事を期待したい。
- ・集会は初めて参加したのでよく分からないけれど、うまくまとまれば良いと思いました。
- ・意見の言える対話集会にして欲しい。時間をとって欲しい。
- ・意見をまとめるのは大変。

- ・今までの対話集会とは違う形式で大変勉強になりました。
- ・より多くの方の意見を拾えるので良いと思いました。
- ・今後の展開をどうされるのか、期待して参加したいです。
- ・川上地区の一部の強力な意見は、自分達の利害のみにこだわり、私には非常に聞き苦しい。気持ちは分からないではないが、地球キボで考えれば、自然ハカイはもっと考えなければならない。
- ・ワークショップを行うのは良いと思った。
- ・今までの集会は強く自分の意見を主張出来る人の意見が印象に残りがちだったが、今回は大体ではあるが、様々な意見を知ることができた。”
- ・7月頃木津川上流が主体として実施したものに比べ、非常に良くなっていると思う。今後もこの方向でさらに対話形式の発展を希望します。
- ・ダムにのみテーマを絞った集会があっても良いのでは・・・と思います。
- ・流域委員会からの説明で最初からダム反対の意見例を取り上げて説明し、参加者を誘導しているように感じた。議論の世界では、より非現実的であり、一日千秋の思いで早く実現して欲しいとの思いを受け止めていない。無責任である。
- ・まさに、流域委員会が表明していることと同じで、委員会は提言するだけで責任をとらない。全くその通りだ！
- ・自由に参加するのではなくて、実際に住んでいる方だけが参加し、意見交換したらどうか。→参加者を制限する。”
- ・意見のメモを大きな映像で写して欲しい。
- ・対話集会を重ねていくことによって良い議論がでるのか！
- ・長々と引っ張って居るだけだと思う。地元民としては一日も早い完成を望みたい。
- ・最初なのでこれで良いと思う。
- ・昨秋には、大和川（奈良）の水系を10Kmほど歩いて種々な現場も見学しました。（400人位参加）施設の説明もあり勉強になった。

3 ワークショップで出された意見の結果

第1回住民対話集会では、ワークショップ形式で、付箋への記入による意見収集を行った。

各参加者は、4つのテーマについて、付箋に記入し、その場で整理して、意見の共有を図った。

テーマは、

1. 現在の木津川の課題（環境・治水・利水・その他）
2. 住民として木津川をこうすればもっとよくできると思う点
3. 住民集會をこれから進めるうえで大切な点
4. 川上ダムについての意見や検討すべき点

である。

意見をまとめると以下のようなになる。

意見の内容		意見数	構成比	
1	現在の木津川の課題	134	100%	
	(1) 河川環境	26	19%	100%
	環境全体	12		46%
	生物	3		12%
	土砂	2		8%
	ゴミ	1		4%
	風景	1		4%
	歴史	1		4%
	親水性	3		12%
	水源	3		12%
	(2) 水質・水量	23	17%	100%
	水質	21		91%
	水質と流量	1		4%
	流量	1		4%
	(3) 治水	41	31%	100%
	治水一般	38		93%
	岩倉峡	3		7%
	(4) 利水	5	4%	
	(5) 治水・利水・環境の関係	22	16%	100%
	バランス重視	3		14%
	治水重視	2		9%
	治水・利水重視	6		27%
	環境重視	4		18%
	環境か治水か	1		5%
	ダムについて	6		27%
	(6) 情報共有	5	4%	
	(7) その他	5	4%	
	(8) 無記入	7	5%	

意見の内容	意見数	構成比	
2 住民として木津川をこうすればもっとよくすることができると思う点	145	100%	
(1) 河川環境	13	9%	100%
環境一般	4		31%
生物	2		15%
山林	3		23%
ゴミ・清掃	4		31%
(2) 治水	17	12%	100%
ダム	7		41%
岩倉峡の開削	2		12%
堰	2		12%
河川床・川底	4		24%
治水に関する他の意見	2		12%
(3) 水質	41	28%	100%
正常な流水・水質	9		22%
排水施設の整備	32		78%
(4) 親水性を高める河川整備	22	15%	
(5) 住民意識の向上	16	11%	100%
意識・モラル	16		100%
(6) 交流と連携	11	8%	
(7) 情報の共有	5	3%	
(8) その他	2	1%	
(9) 無記入	18	12%	

意見の内容	意見数	構成比	
3 住民対話集会をこれから進めるうえで大切な点	152	100%	
(1) 対話・交流の必要性	9	6%	
(2) 広報・情報公開	14	9%	100%
広報	6		43%
情報の開示	8		57%
(3) 招集・交流・運営のあり方	73	48%	100%
参加のしやすさ	11		15%
開催回数	12		16%
開催場所	10		14%
テーマ設定	5		7%
進行役	3		4%
雰囲気づくり	3		4%
話し合いの運営・意見の集約	29		40%
(4) 参加の姿勢	22	14%	100%
意見を聞く	13		59%
理解しあう	5		23%
意見を尊重する	1		5%
発言する	1		5%
提案する	1		5%
協力・妥協	1		5%
(5) 木津川に対する理解を深める	16	11%	
(6) その他	4	3%	
(7) 無記入	14	9%	

意見の内容	意見数	構成比	
4 ダムについての意見や検討すべき点	140	100%	
(1) 認識の共有・議論の方法	28	20%	100%
共通認識	10		36%
プロセス	5		18%
早い結論を	5		18%
協力者、水没者、移転者、これまでの経緯、水没者の気持ち等	8		29%
(2) ダム建設に関する懸念・疑問	36	26%	100%
必要性・規模	6		17%
環境	3		8%
治水	7		19%
利水	6		17%
地盤	4		11%
土砂	1		3%
ダム自体の安全性	1		3%
建設コスト	6		17%
メリット・デメリット	2		6%
(3) ダム建設に賛成の意見	49	35%	100%
実現	1		2%
早期実現	12		24%
治水との関係	19		39%
利水との関係	3		6%
治水・利水との関係	5		10%
計画との関係	9		18%
(4) ダムをつくるときに配慮すべきこと	9	6%	100%
ダムの短所の補完	2		22%
環境への配慮	3		33%
土砂	2		22%
水質	2		22%
(5) ダム建設に反対の意見	6	4%	
(6) 代替案の検討	6	4%	
(7) ダムの利用	3	2%	
(8) その他	3	2%	
(9) 無記入	0	0%	

4 ワークショップでの意見集約および検討項目について

対話集会参加者は、環境・水質・治水・利水の三点に大きな関心を寄せていることがわかった。とくに治水に対する関心と水質に関する関心が高く、その他、多方面から意見が寄せられた。

「淀川水系整備計画基礎原案」で川上ダムについて検討すべきとされている4項目、すなわち、

- (1) 代替案に関して、さらに詳細な検討を行う。
- (2) 貯水池規模の見直し並びに貯水池運用の変更に伴う貯水池周辺やダム下流に与える影響をはじめ、環境等の諸調査を行う。
- (3) 土砂移動の連続性を確保する方策の検討を行う。
- (4) 利水について、水需要の精査・確認を行う。

と異なると思われる点、あるいはとくにポイントとなる意見について、以下に整理を行い、集約する。特に参加者住民は、ダムそのものについてだけでなく、ダム建設と流域の地域社会との関係について、河川管理者に説明を求めている。

(1) ワークショップでの各項目の集約

① 現在の木津川の課題(環境・治水・利水・その他)

(ア) 河川環境

- ・昔のような河川の自然環境をとり戻すこと、および、今も残されている自然環境の保護
- ・生物の生息、生育環境の悪化。(蛇を含む固有種、在来種の減少)。
- ・ゴミ問題
- ・風景・景観
- ・森林(水源)のかん養と水質の確保

(イ) 水質・水量

- ・ダム建設による流量の変化、ダムへの生活排水、その他産業排水の流入による水質の悪化と流域の荒廃への懸念

(ウ) 治水

- ・治水安全度についての懸念

(エ) 環境・治水・利水の関係

- ・治水と環境のバランスを広域的、歴史的な視点で考えること

(オ) 情報共有・説明責任

- ・木津川上流の住民との利害関係の説明が不十分

②住民として木津川をこうすればもっとよくなると思う点

(ア) 河川環境

- ・土砂と生物の河川縦断方向の連続回復。
- ・改修工事等には稀少生物等に配慮した工法を十分取り入れること。
- ・森林整備

(イ) 治水

- ・河床整備。

(ウ) 水質

- ・正常な流水確保
- ・下水道の整備
- ・生活排水・産業排水の改善。

(エ) 親水性を高める河川整備

(オ) 住民意識の向上

(カ) 関係者の交流と連携。

- ・流域の住民、自治体、国交省三位一体となって出来るだけ、地域住民の意見を取り入れていくことが、大切と思う。
- ・意見を反映するシステムづくり

(キ) 情報の共有

- ・情報の公開と説明

③住民対話集会をこれから進めるうえで大切な点

(ア) 対話・交流の必要性

- ・交流機会の工夫
- ・情報共有

(イ) 広報・情報公開

- ・分かりやすい情報の開示。

(ウ) 招集・運営のあり方

- ・参加をしやすく、回数を多く、場所も変えて
- ・徹底的な議論を・実のある集会、意見についての理由、説明を添える。
- ・住民、専門家、多様な人々の参加を
- ・徹底的な議論、納得のいく対話集会

(エ) データと情報

- ・科学的な調査、研究のデータによる対話
- ・ダムのメリット、デメリットの情報共有

④ダムについての意見や検討すべき点

- (ア) 政策評価・政策プロセス、計画プロセス
- (イ) 建設のメリット・デメリット、必要性についての客観的で十分な説明
- (ウ) 治水規模についての説明・費用およびリスク負担についての説明・治水効果についての説明、治水規模との関係での費用対効果
- (エ) 利水の見通し
- (オ) 地盤の安全性
- (カ) ダム自体の安全性
- (キ) 魚の遡上
- (ク) 土砂堆積
- (ケ) 水質悪化への懸念
- (コ) 建設コスト

(2)出された意見からの課題

以上のまとめとして、つぎの4項目を指摘したい。

- ① 川上ダム問題での分かりやすい情報公開と情報共有、管理者と住民との交流・連携・上下流の連携についての説明、川上ダムの計画についての情報提供、意見聴取・連携のあり方についての説明
- ② メリット（治水効果を含む）とデメリット（費用負担を含む）についての分かりやすい説明
- ③ 川上ダムの関係する各週安全性とリスクについての説明
（治水安全度、治水規模、リスクおよび費用負担、地形・地盤（大滝ダムとの関連）、土砂堆積、排砂、水質悪化への懸念、流量低下など）
- ④ 計画から建設までのプロセス・スケジュール（財政面も含めて）についての説明

木津川上流 対話集会

第1回

(平成16年3月20日)

意見のまとめ

目 次

1 現在の木津川の課題（環境・治水・利水・その他）	1
(1) 河川環境	1
(環境全体) 意見数 12 件	1
(生物) 意見数 3 件	1
(土砂) 意見数 2 件	1
(ゴミ) 意見数 1 件	1
(風景) 意見数 1 件	1
(歴史) 意見数 1 件	1
(親水性) 意見数 3 件	1
(水源) 意見数 3 件	1
(2) 水質・水量	1
(水質) 意見数 21 件	1
(水質と流量) 意見数 1 件	2
(流量) 意見数 1 件	2
(3) 治水	2
(治水一般) 意見数 38 件	2
(岩倉峡) 意見数 3 件	3
(4) 利水 意見数 5 件	3
(5) 治水・利水・環境の関係	3
(バランス重視) 意見数 3 件	3
(治水重視) 意見数 2 件	3
(治水・利水重視) 意見数 6 件	3
(環境重視) 意見数 4 件	3
(環境か治水か) 意見数 1 件	4
(ダムについて) 意見数 6 件	4
(6) 情報共有 意件数 5 件	4
(7) その他 意見数 5 件	4
(8) 無記入 (7 件)	4
2 住民として木津川をこうすればもっとよくできると思う点	5
(1) 河川環境	5
(環境一般) 意見数 4 件	5
(生物) 意見数 2 件	5
(山林) 意見数 3 件	5

(ゴミ・清掃) 意見数 4 件.....	5
(2) 治水.....	5
(ダム) 意見数 7 件.....	5
(岩倉峡の開削) 意見数 2 件.....	5
(堰) 意見数 2 件.....	5
(河川床・川底) 意見数 4 件.....	5
(治水に関する他の意見) 意見数 2 件.....	6
(3) 水質.....	6
(正常な流水・水質) 意見数 9 件.....	6
(排水施設の整備) 意見数 32 件.....	6
(4) 親水性を高める河川整備 意件数 22 件.....	7
(5) 住民意識の向上.....	7
(意識・モラル) 意見数 16 件.....	7
(6) 交流と連携 意件数 11 件.....	8
(7) 情報の共有 意件数 5 件.....	8
(8) その他 意見数 2 件.....	8
(9) 無記入 (18 件).....	8
3 住民対話集会をこれから進めるうえで大切な点.....	9
(1) 対話・交流の必要性 意見数 9 件.....	9
(2) 広報・情報公開.....	9
(広報) 意見数 6 件.....	9
(情報の開示) 意見数 8 件.....	9
(3) 招集・交流・運営のあり方.....	9
(参加のしやすさ) 意見数 11 件.....	9
(開催回数) 意見数 12 件.....	10
(開催場所) 意見数 10 件.....	10
(テーマ設定) 意見数 5 件.....	10
(進行役) 意見数 3 件.....	10
(雰囲気づくり) 意見数 4 件.....	11
(話し合いの運営・意見の集約) 意見数 29 件.....	11
(4) 参加の姿勢.....	11
(意見を聞く) 意見数 13 件.....	11
(理解しあう) 意見数 5 件.....	12
(意見を尊重する) 意見数 3 件.....	12
(発言する) 意見数 1 件.....	12
(提案する) 意見数 1 件.....	12
(協力・妥協) 意見数 1 件.....	12

(5) 木津川に対する理解を深める 意見数 16 件.....	12
(6) その他 意見数 4 件.....	13
4 ダムについての意見や検討すべき点.....	14
(1) 認識の共有・議論の方法.....	14
(共通認識) 意見数 10 件.....	14
(プロセス) 意見数 5 件.....	14
(早い結論を) 意見数 5 件.....	14
(協力者、水没者、移転者、これまでの経緯、水没者の気持ち等) 意見数 8 件.....	14
(2) ダム建設に関する懸念・疑問.....	15
(必要性・規模) 意見数 6 件.....	15
(環境) 意見数 3 件.....	15
(治水) 意見数 7 件.....	15
(利水) 意見数 6 件.....	15
(地盤) 意見数 4 件.....	15
(土砂) 意見数 1 件.....	15
(ダム自体の安全性) 意見数 1 件.....	16
(建設コスト) 意見数 6 件.....	16
(メリット・デメリット) 意見数 2 件.....	16
(3) ダム建設に賛成の意見.....	16
(実現) 意見数 1 件.....	16
(早期実現) 意見数 12 件.....	16
(治水との関係) 意見数 19 件.....	16
(利水との関係) 意見数 3 件.....	17
(治水・利水との関係) 意見数 5 件.....	17
(計画との関係) 意見数 9 件.....	17
(4) ダムをつくるときに配慮すべきこと.....	18
(ダムの短所の補完) 意見数 2 件.....	18
(環境への配慮) 意見数 3 件.....	18
(土砂) 意見数 2 件.....	18
(水質) 意見数 2 件.....	18
(5) ダム建設に反対の意見 意見数 6 件.....	18
(6) 代替案の検討 意見数 6 件.....	18
(7) ダムの利用 意見数 3 件.....	18
(8) その他 意見数 3 件.....	19
(9) 無記入 (なし).....	19

1 現在の木津川の課題(環境・治水・利水・その他)

(1) 河川環境

(環境全体) 意見数 12 件

- ・環境 (6 件)。
- ・環境全体。
- ・環境問題。
- ・環境、自然環境の保護。
- ・環境、淀川水等の中でこれほど自然の残る川はない。流域住民はもっと認識すべき。
- ・昔のような河川の自然環境をとり戻すこと。
- ・今も残されている自然環境の保護。

(生物) 意見数 3 件

- ・生物の生息、生育環境の悪化。(固有種、在来種の減少)。
- ・生物、移入種対策と水量確保と魚の遡上。
- ・水が汚くなっている。蛇(水の中の生き物)が少なくなっている。川遊びが出来ない。環境、川は、利用するだけではない。大切な地球の血管なのに人間だけの勝手に、崩してしまつては、生き物は生きては行けない。

(土砂) 意見数 2 件

- ・環境荒れ放題、土砂で埋まって水の流れる幅が狭まっている。
- ・堆積土砂搬出による流水の正常化。

(ゴミ) 意見数 1 件

- ・環境整備(粗大ゴミ、危険ゴミの除去を定期的に行う)。

(風景) 意見数 1 件

- ・風景。

(歴史) 意見数 1 件

- ・木津川の持つ歴史的なチャームポイントを環境に取り込むと、多くの人がもっと関心をもてるのでは。

(親水性) 意見数 3 件

- ・親水性のある環境整備である。
- ・環境整備、親水性高い整備を。
- ・川と流域とのつながり、関わり。

(水源) 意見数 3 件

- ・環境特に、森林(水源)と水質。
- ・上流の環境の整備。
- ・里山を大事にする宣伝と整備、水源かん養林の育成。

(2) 水質・水量

(水質) 意見数 21 件

- ・木津川の水質。
- ・水質悪化。

- ・水質が悪い。
- ・水質や河川環境の向上。
- ・水草についての問題。
- ・水質を良くする。
- ・水質問題悪化をなくす。
- ・川の水が汚れている事です。
- ・水の汚染、環境の変化をどう対策して行くかが課題。
- ・水の汚れ、環境の変化をどう対策して行くかが課題だと考えます。
- ・水質悪化、手や足をつけたくなるような川に。
- ・魚や植物だけでなく、人間も入ることのできる今の水質を維持、より改善していく事
- ・水をきれいにする、水が綺麗だった頃の水質に戻す。
- ・市街地付近の水質悪化。
- ・川の中に家庭排水が流れ込む。
- ・環境に沿った考え方において、綺麗な川にする為には下流との関係がありますが、伊賀上流の河川に関しては川では、谷に、野原の様な一級河川の様に思われるので河川は綺麗な流域のしてほしい。
- ・汚濁ほどの程度か。
- ・環境整備を重点にもっと下水の浄化を務めてもらいたい。
- ・家庭からの生活排水の処理について②産業廃棄物処理場からの有害物処理について適正にやるべき。
- ・環境（河川への排水（生活排水等、ゴミ投機））。
- ・環境、①水質の悪化 ②流域の荒廃。

（水質と流量）意見数 1 件

- ・①ダム建設が長年優先されて来た様で、人類の財産であった河川が死に体になってしまった。具体的には、水量、水質が極度に悪くなった。②流域住民をはじめ、事業者、業者達が出来るだけ水を汚さない、負荷をかけぬ工夫、水を大切に扱う意識を計ろう。

（流量）意見数 1 件

- ・名張川での場合、日常のもっと沢山の水量を流すこと。

（3）治水

（治水一般）意見数 38 件

- ・治水（19 件）
- ・治水問題。
- ・治水（淀川と上野の）。
- ・上野盆地の治水。
- ・治水を最重要として
- ・治水の不安
- ・治水が第一と思う。
- ・治水（河川整備の促進）。
- ・治水だと思います。近年大きな災害がなく、環境についてなどは、今世の中で関心が大きいのが、つつい忘れていところがあるのではないかと。
- ・治水。何と言っても人命財産を守るのが一番大切。
- ・治水。上野遊水地と川上ダム、川上ダムに治水効果が期待できるのか。
- ・治水 1300 m³/s、川上ダム 950 m³/s、遊水地 350 m³/s、浸水被害の軽減。
- ・治水、流域に住む住民の安心が第一、これを確保することにより、次のステップ環境へと進むことができる。

- ・治水、伊勢湾台風クラス、それ以上の規模の台風を恐れる。
- ・治水安全度が低い（と聞いている）のでその改善。
- ・下流域の水害。
- ・治水、遊水地が出来ても浸水があると聞いている。
- ・降雨時における洪水、河川氾濫。
- ・治水…下流（大阪）の為に洪水調節を行う為に、遊水地を作り、それとセットにして川上ダム建設が提案された。今、環境重視の風潮であるが我々の生命・財産を守る方が優先すると考える。
- ・過去の長い間の洪水被害と、今後も発生しかねない治水面の遅れが軽視されている。

（岩倉峡）意見数 3 件

- ・下流の洪水を防ぐ事。
- ・最近、特に大雨洪水が当地区にはありませんが、私共の地区は、治水には特に関心が高いです。岩倉峡の掘削か川上ダム建設が最大課題です。
- ・岩倉峡の開削は難しい。下流の遊水地域も企業庁の工事で整備されつつある中、遊水地域が上流に移行され、その地域が被害を被っている対策を考えて欲しい。

（4）利水 意見数 5 件

- ・利水（4 件）
- ・利水流合一本化。

（5）治水・利水・環境の関係

（バランス重視）意見数 3 件

- ・治水と環境のバランスをマクロ的（広域的、歴史的）視点で考える事の重要性。
- ・環境、治水、利水全部。
- ・永遠の課題であるが、利水と環境保全の両立（どこまでがお互いに許されるのか）。

（治水重視）意見数 2 件

- ・自然環境の大切さを大事にする事は、理解するが、災害を未然に防止することの施策はもっと大事である。
- ・環境、治水、利水、すべて大切なことですので、総合的な検地が必要ですが、あえて1つだけとなると、治水。

（治水・利水重視）意見数 6 件

- ・治水・利水（4 件）
- ・予算を多く使い河川の治水利水を使う。
- ・治水、洪水に弱い川でダムがない川だ。利水も必要、河川維持用水も必要。

（環境重視）意見数 4 件

- ・環境を良くする利水
- ・環境へのダメージが最小限の治水
- ・環境→川へ近づきやすい河川の整備を進める。治水→ソフト的な対応へ移行。河川カルの整備・公表等。ダムによる治水は、時代遅れで、非効率的。面的整備を図るべき。利水→水道事業全体の見直しが必要。
- ・環境についてゴルフ場よりの排水、河川敷の整備。治水、利水、少子高齢化で産業の空洞化で少なくなるだろう。

(環境か治水か) 意見数 1 件

- ・今後、人口は、減少していくことから利水の観点はずして議論すべき、環境か治水か二者択一で進めて行くべき。

(ダムについて) 意見数 6 件

- ・一般的に言って、ダムに代わりうる治水の方法は困難だと思われる。ダムに反対だというのなら、それに代わる代替案を明確な数字を示して説明願いたい。最大限に環境を守りながらのダムも可能なのではないか。
- ・淀川の最上流にある為、常時流量が少ない必要な水量の確保が最重要である。ダムの必要。
- ・ダムサイドの整備をせよ。
- ・ダムサイトの整備。流環境整備。
- ・ダムをつくるにあたって木津川がどう変化するか。
- ・ダムさえできれば洪水がなくなるのか。上野市の町づくりはこのままで大丈夫なのか。

(6) 情報共有 意見数 5 件

- ・木津川の性質を先ず知ろう。昔の人の知恵、経験そして、時の経済動向を知る事が大切。
- ・環境はより悪くなるか、良くなるか、わからない。もっと知らせるべきである。
- ・早く、明らかに。目で見てわかるように。
- ・木津川と住民との生活における利害関係が、十分に説明されていない。河川整備にどれだけの費用をかけるべきかの議論がない。
- ・人々の無関心。

(7) その他 意見数 5 件

- ・治水利水に望みを託しているので長良川の水を買わなければならない様であると将来的に大変な事になる。
- ・国の予算をつけよ。
- ・伊賀地域での水源は表流水しかない。
- ・わからない。
- ・近所の者でありませんで、わかりません、情報を持っていません。

(8) 無記入 (7 件)

2 住民として木津川をこうすればもっとよくなることができると思う点

(1) 河川環境

(環境一般) 意見数 4 件

- ・環境。
- ・川の自然を取り戻す。
- ・周辺の環境整備。
- ・よくするというのは、様々な方法があるので1つに絞ることは難しいのですが、個人的には、自然を壊すような事はしてほしくないが、それは僕のエゴです。

(生物) 意見数 2 件

- ・土砂と生物の河川縦断方向の連続回復。
- ・改修工事等には、稀少生物等に配慮した工法を十分取り入れる事。

(山林) 意見数 3 件

- ・木津川上流部の山林に広葉樹の植林を進める。
- ・広葉樹の植林等、山の保全(下流住民の負担)。
- ・失われた森林の回復、水を守る事は、森を守ること。

(ゴミ・清掃) 意見数 4 件

- ・清掃活動。
- ・ゴミ拾い。
- ・自主的なゴミ拾い、遊び場を作る。
- ・地域住民の出会作業で清掃すること定期的に。

(2) 治水

(ダム) 意見数 7 件

- ・川上ダムの早期実施。
- ・ダム建設を実現させる。
- ・環境に配慮しながら、ダム(初期計画の通り)建設を。
- ・治水・利水・河川環境(維持用水)を良くするために川上ダムの早期完成。
- ・老朽ダムの撤退を。
- ・ダム上流をもっと整備したらどうか。
- ・災害を未然に防ぐ。

(岩倉峡の開削) 意見数 2 件

- ・岩倉峡を開削すること。
- ・遊水地を持つものにとって岩倉開削は1番よい。

(堰) 意見数 2 件

- ・各農業用井堰の統合を、大型予算の確保を。
- ・井堰の統廃合と固定堰の解消。

(河川床・川底) 意見数 4 件

- ・浚渫工事の実施。
- ・河川の浚渫。

- ・河川床整備。
- ・川底の整備。

(治水に関する他の意見) 意見数 2 件

- ・問題は、難しい、具体的に選別できる項目の中から選べるようにして下さい。
- ・少ない予算でも工夫すれば、事業はできる。無堤防地帯の名張川流域黒田地区に堤防の基礎(盛土)ができた。他地区の残土を運んで。

(3) 水質

(正常な流水・水質) 意見数 9 件

- ・正常な流水確保。(一定の水が常に流れている川にする。)
- ・一定の水量を確保出来る事。洪水の調節。
- ・水の流れをよくする。
- ・河川敷地の土砂、竹林をのぞき、水の流れを良くする。
- ・水質については、川に悪水を流さないようにする。
- ・水質浄化対策、親水施設の設置。
- ・特に上野市町部の水質の浄化。
- ・水質目標を住民自身が持って、対策を具体化する。
- ・水は大切です。

(排水施設の整備) 意見数 32 件

- ・下水道の整備 (9 件)
- ・下水道の整備。特に上野市。
- ・地域の下水整備。
- ・下水処理施設を進める。
- ・下水の整備、本当にその通りです、水質悪化は、住民の想像以上であると言われる。
- ・河川の整備、上下水道の早期完成。
- ・公共下水道整備、幼少期からの水源(河川)に対する教育。
- ・下水道の整備早くせよ。
- ・下水道整備の推進。
- ・即効性のある水質浄化対策(合併浄化等)。
- ・下水道整備をできるだけ小さな単位で。
- ・下水は集落排水にする。
- ・集落排水の強化。
- ・各家庭の浄化槽の設置、又は、集落排水施設を作る→現在徹底されていない、近所では生活排水を垂れ流ししている家もある。
- ・流域全体の下水処理施設を作り、汚れた水を川に流さない。
- ・家庭排水の処理。
- ・生活排水浄化(下水道整備)。
- ・生活排水で汚くしないようにする。
- ・木津川の汚濁負荷低減の為に、生活排水に留意する。市民活動を通してより多くの人に啓蒙する。
- ・生活廃水をなくす。
- ・畜産業の廃水処理の向上。
- ・農業用水(農薬)の流入に工夫を。
- ・流域内の産廃処理を厳しく。
- ・水質悪化の防止(流入する生活、工業排水の水質規制)。

(4) 親水性を高める河川整備 意見数 22 件

- ・誰もが憩える場作り。
- ・住民の憩いの場として利用価値を高める。
- ・住民が木津川に親しめるような、川の整備、例。(水際、親水施設)。
- ・もっと川へ近づける親水を目的とした線的、面的な整備を図るべき。
- ・河川内の整備(堤防含む) ※近づけない所多々あり。
- ・上流域においては、河川敷の利用を計るスポーツ施設等。
- ・河川を住民にとって最も身近かなものにしていきたい。自然、市街地形成にマッチした河川公園を作るなども 1 例と思う。
- ・親水公園に河川の利用。
- ・川遊びができる場を作る。
- ・キーワード…川の近くに花や植木を！他の川に比べて比較的楽しい川が木津川という印象(石遊び、泳げる、カヌーetc.) だが、もっと楽しく、行きたくなる、近寄りたくなる川に。
- ・きれいな川、子供が遊べて、生物が生きていくにはどうするか？
- ・小学校の学習時間において、川と遊ぶ時間を作ることが必要。
- ・子供(特に女の子)が川で遊ぶようにする。(やがて母親になり子供を連れて来る！長期的な対応)。
- ・環境の整備、河川敷の有効利用での地域住民の川とのつながりが、深くなる様な形にできれば…。
- ・川に触れ合う機会を増やす。
- ・川と親しむ機会を増やす。
- ・老若男女を問わず、親しみやすい河にする。
- ・川に触れる、水に入るといことが、容易にできるようにしたい。
- ・一人一人が川端に立って、川面をもっと眺めて下さい。ボランティアで川の監視員を増やして下さい。
- ・川をただ危険なものとして扱うだけでなく、人と川が近づけたりできれば嬉しい。京都の鴨川のように。
- ・(この辺の住民ではありませんが、) 分からない。でも、川で遊ぶとどれだけプールなんかより良いか分かる。小さい頃からの川遊び。
- ・木津川にもっと親しむことだ、そうすれば、何を大切にしなければならぬかが分かってくる。

(5) 住民意識の向上

(意識・モラル) 意見数 16 件

- ・住民参画、地域の川は地域で。自分達のものとして考えよう！！
- ・住民一人一人が木津川を綺麗にするという意識を持って住民運動を起こし汚さぬようにする事。
- ・自主防災意識、川を汚さない努力等、住民の意識向上。
- ・木津川の水質汚染の改善策、木津川の支線ごとの水質調査とその原因究明、対策、水質改善策に金で解決にはおのずと限界があります。住民一人一人が水を汚さぬ知恵を出す。
- ・住民各自の河川に対する意識の向上。
- ・住民の意識の改革。
- ・水に対する住民意識の改革。
- ・住民一人一人の意識を高める。(子供に優しい心を育てる)。
- ・木津川に対して住民の関心を高める。

- ・住民一人一人がもっと生活の中で河川のあり方を考えるべき。
- ・生活様式の改善。
- ・住民一人一人のモラルの向上。
- ・住民等、より多くの人々が日常の生活において、木津川（河川）の利用を必要とするか。→木津川との関わり。
- ・河川を愛する心を持つ。
- ・地域住民の方々が、一人でも多く川への思いを持つ事（下流域の人は上流域を、上流域の人は、下流域を）。
- ・（住民じゃないけど）木津川は本当に美しい川だと羨ましい。宝として大切にみんなで考えて欲しい。

（6）交流と連携 意見数 11 件

- ・学習と対話集会とを一連のものとして行う。
- ・流域の住民、自治体、国交省三位一体となって出来るだけ、地域住民の意見を取り入れていくことが、大切と思う。
- ・治山（森林）や開発抑制、いわゆる防災、水源保護、水質、生物環境をよく考えた地域復興策を色々な住民団体や地域住民がチェックしたり、意見を反映できるシステム作り。日常の連携の推進。
- ・生の声の聞き取り。
- ・木津川に興味を持つ（流域）地域外の方々との交流を持ち、川を綺麗にする活動。
- ・上流の方の治水関係に気配りして欲しい。
- ・下流域だけを見つめない。
- ・木津川がどこからどこに流れているのかと思う。
- ・大阪等下流の方の思いやり。
- ・下流住民（大阪市）として木津川に対する関心は薄い。
- ・水没者のことを考えて。考えることが第一である。

（7）情報の共有 意見数 5 件

- ・近所の者でなく情報がありません。
- ・川として果たす役割を。住民に親しく、常に情報の提供をすること。
- ・地域住民にチラシ等でエコについて説明する。エコは河川浄化に役立つと思う。
- ・木津川上流の実態を住民に、まず、良く詳しく知らせて欲しい。（どこが洪水の時に危ないのか、どこから汚い水が入ってくるのか、どこから取水しているのか、どこで河川で遊べるのか）。
- ・計画案の事業がどのような確率でどのような結果、影響が出るかという検討をしてその情報を公開する。

（8）その他 意見数 2 件

- ・地域の特性を活かす。街づくり。
- ・観光資源として活用（岩倉峡の川下り等）。

（9）無記入（18 件）

3 住民対話集会をこれから進めるうえで大切な点

(1) 対話・交流の必要性 意見数 9 件

- ・対話集会の強化。
- ・交流の機会を多くする（自治会その他、集会等）。
- ・交流の機会を多く持つて。
- ・情報共有の為の対話の機会を多くする。
- ・対話の機会を多く持つため、住民の交流の「場づくり」。
- ・地域の交流。
- ・交流の場 会議室だけでなく。実際に川に行くとか。
- ・上下流域住民交流。
- ・上、下流域住民の対話、体験イベント等々。

(2) 広報・情報公開

(広報) 意見数 6 件

- ・対話集会を広める。
- ・対話集会がある事の広報。
- ・「集会」が何であるか、又、開催そのものをもっと広報する事。早い予告。
- ・今回の方法でよいと思う。PRの方法は、今、少し考えて広告を見逃すことのないように、御配慮いただきたい。
- ・対話集会に対する住民の理解と周知を計ること。
- ・もっと日常的に身近に感じたい為、楽しいチラシを作ってください。

(情報の開示) 意見数 8 件

- ・情報の開示。
- ・公報その他のメディアで水に関する情報を流す。
- ・情報の公開（マスコミの活用）。
- ・分かりやすい情報の開示。
- ・分かりやすい言葉の使用。
- ・事前資料を配布してから参加者が十分と検討できるようにして開催する。
- ・河川管理者側の情報が不十分であり、このような状態では、住民の的確な意見の構築がされない。それを改めなければ、ならない。
- ・回覧版等の誰もが見るような場で、こういった討論会の結果発表を行う。

(3) 招集・交流・運営のあり方

(参加のしやすさ) 意見数 11 件

- ・参加しやすいこと。
- ・参加のしやすさ。
- ・参加しやすい集会。
- ・参加しやすい対話集会（場所・日時・雰囲気）。
- ・一人でも多くの住民が参加すべき。
- ・いろいろな層の参加、若い人、女性が少ない。
- ・若年層（高校生～中学生）の対話集会への参加。
- ・行政の代表も参加して欲しい。

- ・子供の頃よりこういった集会へ参加し、考える力を養う必要がある。
- ・キーワード“もっと多様な人々の対話集会を”今日の集会もそうではないか？と思われるのだが…、対話集会に集まる人が一般市民ではなく何らかの形で河川に関わってきた人たちに限定されている気がする。広い意味でもっと多様な人々の対話が必要。
- ・話を聞きたくなるような、前に立つ人間の話し方、パフォーマンス性、いくらチラシをまいたところで無関心な人は無関心。集会へのリピーター率の上昇が鍵。

(開催回数) 意見数 12 件

- ・回数
- ・対話集会を多く持つ。
- ・住民対話を何回もせよ。
- ・機会を増やす。
- ・後戻りしない様に対話の集会を多くする。
- ・年に4・5回は、してもらうように。
- ・定期的な開催(継続)。
- ・長くじっくり進めて行かなければよくないと思います。1～2年で終わるものではないと思う。
- ・集会はある程度(回数)開いたら、それを受け責任ある方々で協議して欲しい。その為、賛成、反対、その他より多くの意見を聞くこと。
- ・関係各地区での開催。
- ・機会を増やす。
- ・住民対話を何回もせよ。

(開催場所) 意見数 10 件

- ・関係各地区での開催。
- ・ブロックごとの対話集会。
- ・関係する地域の小さいブロックごとの対話集会。
- ・小規模集会(各地域別)も必要と思う。
- ・小地域での集会。
- ・流域全体で考える部分と流域の各地区で考える部分を分けて、2テーマとして1つの会で行う。
- ・地域特性で抱えている問題点が違うから、自治体別に開催してはどうか？
- ・各地区で集会(住民同士)を持つ
- ・地域特性で抱えている問題点が違うから、自治体別に開催してはどうか？
- ・地区(行政的な大字の区長(町長)が積極的に話し合いをする機会を作る(今までは、木津川に面した地域のみ考慮していた感あり)。

(テーマ設定) 意見数 5 件

- ・流域全体で考える部分と流域の各地区で考える部分を分けて、2テーマとして1つの会で行う。
- ・分かりやすい視点を見出し話合うこと。
- ・何についての(具体的目標が)対話するかのテーマ設定を。
- ・ある程度項目を絞って意見を聞く。
- ・利水・治水、環境も大切だが人命の方が大切である。

(進行役) 意見数 3 件

- ・話を聞きたくなるような、前に立つ人間の話し方、パフォーマンス性、いくらチラシをまいたところで無関心な人は無関心。集会へのリピーター率の上昇が鍵。
- ・コーディネーターの力量に寄るのではないかと思う。
- ・言葉は、不十分な場合が多い。その時その人は、何を言いたいのかを深く聴き取る力量だと思う。

(雰囲気づくり) 意見数 4 件

- ・どんな意見も言える雰囲気が必要。
- ・発言しやすい雰囲気作り。
- ・夫々の想いを言いやすい雰囲気作り。
- ・継続的に皆が参加する(したくなる)ような雰囲気。

(話し合いの運営・意見の集約) 意見数 29 件

- ・少人数によるラウンドテーブル式の対話
- ・意見の集約方法、ともすれば反対意見が大きくなる、賛成意見は少ない。(声が小さい)
- ・大きな声が良い意見ではない。
- ・自由に発言できるように。(参加者は、何も発言できない)
- ・賛成意見、反対意見を述べる人の人数は合わせるべき。
- ・上流域住民、下流域住民を含めた住民の意見が、活かされ、反映される形を。
- ・地元の人、地元の事を良く知っている人、地元を大切に考えている人に発言してほしい。他所から来て、環境の事だけ言う人はイヤ。
- ・賛成派、反対派の両者が納得できるまで粘り強く何回もすべきである。
- ・徹底的な議論を行い、納得のいく(全ての住民が納得するとは思わないが)対話集会としてやっていただきたい。
- ・難しい賛成派の演説をどう抑えるか、本当の話し合いがされていない。
- ・意見者・発見者のグレードを分ける。グレード1: 対策を持っている者、グレード2: 対案を持っていないか、反対の者。※グレード1か。グレード2の意見を繰り上げ発言する。
- ・形式だけにとらわれず、実のある集会を行ってほしい。
- ・地域の人が持続的に活力ある生活圏を確保していく為に、木津川はどうあるべきかを考えるべきだ。
- ・数年後でも正しい判断を持って!!
- ・同じ者(人間)の意見の片寄りをなくす。
- ・現住民の事を大切に。
- ・色々な意見もすべて人間の生存の為であるという視点。
- ・対話集会での賛成、反対意見についての理由、説明を添える。
- ・完全合意はないから、なるべく早期に結論を出してほしい。
- ・住民対話は必要な事ではあるが、対話ばかりしていてもなかなか結論が出ないと思います。
- ・気軽に意見が言える機会が度々あると良い。
- ・今日の進行は良い。意見を出しやすい。
- ・現在のやり方でよい。流域住民と対等(主客)で考えていただいている。
- ・この国が民主主義であるならば、最終的には多数決で結論を導くべき。
- ・意見を集約するのであれば、事前に考える時間を持つことができるようにしてほしい。無記名の意見をもっと吸い上げることが必要と思う。
- ・住民の意見も大切だが、専門家の意見も聞きたい。
- ・住民の意見を極力吸い上げる方策をとれるようなことを考える。
- ・直接係わる地元の方の声を引き出す。

(4) 参加の姿勢

(意見を聞く) 意見数 13 件

- ・人の意見を十分聞く。
- ・他の人の意見を良く聞く努力が必要。
- ・人の意見を聞く、そして自分の考えを見直す柔軟性。

- ・自分と違う意見に耳を傾ける。全員の姿勢。
- ・参加者の意見をよく聞く、時間を作る。
- ・治水体験者の声を聞け。
- ・中高生の意見も聞いては。
- ・本当の対話を行う。つまり、じっくり相手の意見（体験談）を聞く事が大切。（歴史・体験という情報の共有）。
- ・意見を聞いて実行してもらうことである。
- ・今までに犠牲になった人、苦勞してくれた人の心を思う気持ちを持って対話する事。
- ・賛成・反対夫々の意見があっても、相手の立場への理解が必要。
- ・時間に追われず話し合い、全員が理解すること。明るく前向きに考えていくこと。
- ・施策とそれによる現象を皆が理解して、それに基づいて議論すること。単なる言い合いは意味がない。

（理解しあう）意見数 5 件

- ・賛成、反対の議論するのでなく、社会通念上のあり方を理解しあうこと。
- ・相手の主張をどう認めるか。
- ・住民の間で活発な意見交換を行う。また、感情論にならないよう勉強して相互の事が分かるような場を設ける。
- ・若い人の意見を取り入れる。
- ・できるだけ多くの人の意見をもとめていく。

（意見を尊重する）意見数 3 件

- ・意見の尊重。
- ・地域に住む者の意見を尊重して欲しい（特に上流）。
- ・男性の意見は常にくずす意見だ。母なる女性の心をしっかり取り入れて！

（発言する）意見数 1 件

- ・一人一人意見を言うこと。

（提案する）意見数 1 件

- ・積極的に提案すること。他人の意見をよく聴くこと。木津川を愛する「想い」を共有すること

（協力・妥協）意見数 1 件

- ・協力・妥協。

（5）木津川に対する理解を深める 意見数 16 件

- ・もっと木津川を知ること。
- ・水に関する常識を高めること。水と空気は最大の環境問題。
- ・真実を知ること、洪水災害、ダムの効果。
- ・検討対象とする事柄について現状、事実を共有すること（事実認識が異なっていること対話が難しい）。
- ・川上ダムについて、これまでの経過の中で合意形成されてきた事柄を評価をする。整理する必要がある。
- ・科学的な調査、研究のデータを下に対話・学習を進める。
- ・ダムのメリット、デメリットを情報共有した上で、町づくりそのものを見直して、欲しい。
- ・現場を見ること。遊水地、ダム。地元のダム推進派の方々は、過去のいきさつからの感情論でなく、現時点でのダムの必要な理由を明らかにしてほしい。
- ・川でのイベントをして交流する。（例）川を歩いてみる。

- ・住民が関わりたいと思う身近なイベント、例えば、祭り等を通して広く知らせるべきと思う。
- ・子供の時分から、川を知った人と話す。
- ・楽しみながら学習のできる工夫を皆で考えるべき、若者の参加が重要。
- ・小・中学校における教育を進める。
- ・木津川が住民にとって何であるかを説明する。
- ・せつかく綺麗な水がある事を流下の者にも説明したら。
- ・多様な視点を持つ。

(6) その他 意見数4件

- ・ダム撤退の場合、対話集会は合意形成の有効な方法となるのか。
- ・この集会は昭和40年代に行われるべきで、今頃してもおかしい。
- ・集会に参加して意見や趣旨を聞く事は良い事であるが、まだそこまで考えてこれが良いか悪いか判断できない。
- ・特にない。

(7) 無記入 (14件)

4 ダムについての意見や検討すべき点

(1) 認識の共有・議論の方法

(共通認識) 意見数 10 件

- ・ダムの機能について、また従来からの経過についての共通認識（住民の中に欠けているのではないか）。
- ・何を守るのかを決めて行かないといけない。人？環境？財産？
- ・我国のダム（ダム湖）に関する効果（プラス面）と影響（マイナス面）について広く情報を共有する事が大切（ダム湖の現実の理解）
- ・情報、立場、時間、（経緯）の共有、これまでの対話集会は、上記を踏まえない意見が多く、平行線の議論が多い。
- ・下流域に住んでいながら川上ダムのことをよく知らない。
- ・下流との対話をする。
- ・名張市を除く伊賀地域の住民の意見の把握。
- ・様々な意見を聞いて、一人一人の思いを大切にす。
- ・将来の展望に立っての是非論が必要。（今だけでなく）。
- ・すみません。何の為に造るダムか知りません。資料読んで勉強します。

(プロセス) 意見数 5 件

- ・政策評価を一度きちんと実施して政策として間違っていたことを総括して、白紙に戻すべき、その上で必要性の有無を再検討すべきである。
- ・36年前にさかのぼって、住民の意見、環境問題、経済、治山、治水を調べて見ることが必要と思う。地震については、未知なので詳しく知りたい。
- ・治水上で気候変動の評価について、もっと具体的に明らかにしていく必要がある。
- ・広域上水道整備という考え方の問題点。
- ・ダム建設における周辺住民への補償。

(早い結論を) 意見数 5 件

- ・早期の結論
- ・早く結論を出す。
- ・結論を早く纏めるべき、(対話集会等の機会を増やし)。
- ・是非早くして下さい。今まで長くかかりすぎている。
- ・期間（スケジュール）を定めて検討会を設定する必要がある。(検討期間長すぎる)。

(協力者、水没者、移転者、これまでの経緯、水没者の気持ち等) 意見数 8 件

- ・43年の原点に戻って話をして欲しい。水没者の声を聞け。
- ・水没者の協力は、無駄にはできない。
- ・建設すべき。地域を離れた人達の事を考えるべき。
- ・移転した人達のできるだけ多く聞き、広報すること。
- ・協約した約走を変更せず、実施すること。
- ・地元住民の（青山町）反対派の意見を尊重して一緒に考える必要がある。
- ・立ち退いた者の気持ちを考慮したダム推進。
- ・下流の治水利水のため上流の住民が、建設に同意した事が何だったのか。流域の環境を十分考えた上でなかったのか。

(2) ダム建設に関する懸念・疑問

(必要性・規模) 意見数 6 件

- ・本当に必要なのか。
- ・ダムはいるといえはいるし、いらぬといえはいらぬ、本当に必要かよく考える。
- ・本当に必要なのかを充分検討し、住民に明らかにして欲しい。
- ・まず、建設ありきでなく、最もベストの対策とは、何か。
- ・ここに、どれほどの規模、そして目的のダムが必要か、又造ることができるのか。(環境負荷主眼で)
- ・ダムの必要性についての客観的な事実に基づいた検討。ダム賛成について、特に地元からの要望は、情緒的な面が見られる。

(環境) 意見数 3 件

- ・自然環境の悪化。
- ・ダム建設は、川の環境をまったく変えてしまう。それでいいのか、他に問題解決法がないのか。
- ・川上ダムを建設する事による環境への影響。

(治水) 意見数 7 件

- ・治水規模をどう分担するか。
- ・川上ダムがなぜ必要なのか？治水？利水？皆不要環境を一度くずして、後世に何を残す？
- ・天然のダム（山）を整備出来れば良いのでしょうか。
- ・川上ダムの治水上の効果（ダムだけで上野を救えるとは思えない）。
- ・治水効果が期待できるのか。
- ・治水面の効果が低い、利水面で不要。→中止する時は、環境回復と地域復興対策が必要。
- ・治水の計画についてもっとわかりやすく説明する責任があると思う。治水はダムと遊水池がセットとなっている、どれだけの雨が降ったときダムに何トン、湧水池に何トン、岩倉峡下流に流せるのは何トンか。それも雨の降り方も川上ダムの上流以外の場合はどのような事になるのか等。

(利水) 意見数 6 件

- ・川上ダムを作る要件に利水があげられているが、今後の利水の見通しは、どんなものですか。
- ・水需要の精査や環境への負かなど総合的に判断する必要がある。
- ・今回、奈良県が建設から撤退表明されたが、建設する場合、(各自治体の)負担割合等は？
- ・人の利水を考えて（飲料水等）。
- ・環境・利水の精査。
- ・自発電力を考えて。

(地盤) 意見数 4 件

- ・地震帯や断層のある地点であるため、大滝ダムの二の舞になる。
- ・ダム近傍一帯は、非常に地質不安定。私の調査で活断層の存在が浮上している。
- ・地盤が心配。
- ・本当に必要なのか現下の情勢では地域住民の一人として、良く解らない。

(土砂) 意見数 1 件

- ・ダム底のしゅんせつについての考え方を伺いたい。

(ダム自体の安全性) 意見数 1 件

- ・下流域住民としてダム自体の安全性をどのように確保していくのか!!

(建設コスト) 意見数 6 件

- ・住民の財産と命とオオサンショウウオの命とどちらが大切か、検討すれば。
- ・建設コスト、周辺事業のコスト、期待される便益を明らかにすることが必要。
- ・お金の事をもっと議論すべきである。過去の水害の恐怖ばかり言われるが、現在の木津川河川は、それほどもろくない。ダムは、当初計画の何倍もの金を必要とする 100 年に 1 度の降雨に備えるのではなく、30 年に 1 度の降雨に備えるぐらいで我慢することも必要。
- ・具体的にどこまで、進んでいるのか、地域住民に行政などを通して知らせるべきだ。本当に必要なのかと思っている。
- ・財政的な裏付けが希薄。
- ・ダムを中止した場合、今まで、投資した金は誰が負担するのか

(メリット・デメリット) 意見数 2 件

- ・ダムを造った場合と中止した場合のそれぞれのメリット・デメリットを明確に説明して欲しい。
- ・川上ダムを造らなければ、どうなるのか、ということを知りやすく説明できること。

(3) ダム建設に賛成の意見

(実現) 意見数 1 件

- ・実現すること。

(早期実現) 意見数 12 件

- ・早期建設
- ・早急に完成
- ・早急にダムを作る
- ・早くダムを完成すべきである。
- ・早急に工事にかかるべし。
- ・早期完成に努力して欲しい。
- ・治水の観点より、推進すべき。
- ・川上ダムは、早急にせよ。
- ・早期建設が重大課題です。
- ・計画から現在迄、長く年月がかかり過ぎている。早期着工を望む。
- ・早期に完成させて、事業費の削減を図ることが必要。
- ・速やかに建設にかかること。

(治水との関係) 意見数 19 件

- ・治水に対して有効。
- ・上野盆地の治水上必要。
- ・川上ダムは、下流の治水上大切なもので早期に、完成されたい。
- ・建設推進治水面において、特に上野遊水池事業は、川上ダムでの洪水調整ありきで計画されている。水害防止の為、早急に着手されたい。
- ・賛成、名張川水域にダムが 4 つあっても笠置町有市では道路浸水が起こっている。木津川で水量調整するために遊水池だけでは、無理だからダムを造るのではないか。十分に検討した結果の建設計画をなぜ今さら論議する必要があるのか。
- ・遊水池とダムで洪水調節をすることが基本である限り早期に実施すべきだ。
- ・計画が有ってから、期間が経っている。国の財政上時間が経つにつれ実現が難しい。

下流の利水、治水上、絶対早期実現を希望する。ダムが下流の総てを解決する。

- ・治水の為に、とても大切だと思う。青山から上野間での堤防で治水の為に、どの様に役立つものかもっと知らせて欲しい。
- ・治水のため川上ダムの必要性。ダムがないと洪水の恐れ。地球温暖化、異常気象に向けた対策小津川、名張川を含めた河川環境を良くする為に、大きな川上ダムの早期完成。
- ・川上ダム建設が中止になれば新居地区長田小田地区の湧水地が岩倉峡の開削による方法が決定されない限り、いつも台風による水害の恐怖にさらされて困る。
- ・川上ダムの完成が16年度で計画されている。ダムへの用地提供者、治水、利水を待ちに望んでいることを大事に考え、規模は縮小する事はあっても、早く進めて欲しい。
- ・現在の事、進む事。
- ・早期着工、岩倉峡を開削しない前提では、ダムは治水上必要、既に移転も完了している。早期に事業効果を発現させるべき。
- ・ダムを条件に遊水池を作っているのに、中止になれば、全部元に戻すのか。
- ・洪水防止の為に必要と考える為、環境面では、できるだけ軽減することを配慮する。
- ・ダムを作る事において流域住民の治水利用等に対して必要である。上野市湧水地対策の条件でもあり、ダムが必要である。
- ・下流域の浸水被害緩和。
- ・遊水池の新設拡大等、用途住民の合意は不可能と思う。過去の経験に照らして。
- ・ダム建設以外湧水地、下流の大阪市を守れない。

(利水との関係) 意見数3件

- ・生活用水が是非必要である(私達の地域は、管水道の為)。
- ・利水容量の確保に必要であるならば、必要性を明らかにして、ダムを造るべきだ。道路(付替)、新しい村を建設しており、投資を無駄にすべきでない。
- ・利水において多額の先行投資がされているので、企画を縮小してでも着工すべきである。

(治水・利水との関係) 意見数5件

- ・ダム建設、治水、利水 賛成。
- ・治水、利水面から早期完成を望む。
- ・上野地域の治水対策と伊賀地域の利水(水道用水)の供給
- ・川上ダムは、建設すべき!上野市第8次拡張事業の水源に予定されていると聞く。小生の地区もこの事業の推進を持っている。ダムが中止となると生活用水の確保が心配である。
- ・利水分を引いてもダムを建設すべし。

(計画との関係) 意見数9件

- ・建設と目的を簡単に変えてはいけない。
- ・川上ダムは、既に計画済みの中で、地上層遊水池ではなかったのか、今頃そんな事を云われて存外である。
- ・道路整備ができておらず、早急に進めて欲しい。
- ・河川管理者は、従来の計画を推進する事を、強力に実施すべきだ。
- ・永い間計画検討をして来て今更中止では困る。国の損ではないか。
- ・上野市、特に私たち下流(低地帯の小田町では、100年来ずっと災害を被っている。もうこれ以上の犠牲は、許されない。
- ・公共事業のうち、大型事業についての合意形成は出来るわけがない。
- ・国民は自分、家族職場を中心に考えることから、川上ダムについては、既に直接関係者の合意形成はできている。又、間接関係者、その他の国民の反対運動も起きていない。よって早期完成することが必要である。
- ・水利用必要?

(4) ダムをつくるときに配慮すべきこと

(ダムの短所の補完) 意見数 2 件

- ・ダムの短所をおぎなう方法を考える。
- ・中小洪水に対しても、有効なダム、上流域の下水処理施設を造る。

(環境への配慮) 意見数 3 件

- ・環境に配慮した上で是非、建設願いたい。
- ・環境に配慮する。
- ・ダムは魚のそとと水量を安定して下流へ流すことを防げないようにする。
- ・住民の財産と命とオオサンショウウオの命とどちらが大切か、検討すれば。

(土砂) 意見数 2 件

- ・現在のダム技術のPR。必要土砂移動は、もっとスマートに出来る。
- ・下流に土砂を流す工法をとって欲しい。

(水質) 意見数 2 件

- ・水質悪化を防ぐ手立て、(他のダムによりきれいな)
- ・生態系について考慮する。何故、ダムが必要なのかをきっちり説明する。

(5) ダム建設に反対の意見 意見数 6 件

- ・不要。
- ・ダム建設中止
- ・ダムは反対、自然は自然のままで...
- ・ダムは反対、なるべく自然を人工的なものにしたくない。自然災害はあるものであり、防ぐ為に作って、又防ぐ為に...と悪循環してほしくない。
- ・人口減社会に向うのでダムは不要。
- ・ダムを作らない方向で検討すべき、すでに科学的調査から見ても生態系の観点から見ても将来に向けて(孫の代)つくらない方がベターである。

(6) 代替案の検討 意見数 6 件

- ・ダムの代替案の徹底的検討。
- ・代替案
- ・多様な代替案提示。
- ・詳細なデータの公表(川上ダムの代替案等について。)
- ・川上ダムを作らなければ、どうなるのか、ということを知りやすく説明できること。
- ・川上ダム有りきが優先している感がある。1.ダム以外での治水をもっともっと考えられないか。2.上野市街地の水害、防災策の1つとして、地形上の低い治用のエリアから木津川上流の水を名張川へバイパスする事で、低工事費で、低コストで目的を解決。

(7) ダムの利用 意見数 3 件

- ・水と遊ぶ、親水施設。
- ・ダムのできた後の活用。
- ・ダムが出来上がったら、住民に開放。

(8) その他 意見数 3 件

- ・名張地域にはダムがたくさんあります。私達の住みよい町。水の資源の大切な使い方など。
- ・水は、我が国の資源なので大切に使う様にする。
- ・水系が違うのでパス。

(9) 無記入 (なし)

意見の内容	意見数	構成比	
1 現在の木津川の課題	134	100%	
(1) 河川環境	26	19%	100%
環境全体	12		46%
生物	3		12%
土砂	2		8%
ゴミ	1		4%
風景	1		4%
歴史	1		4%
親水性	3		12%
水源	3		12%
(2) 水質・水量	23	17%	100%
水質	21		91%
水質と流量	1		4%
流量	1		4%
(3) 治水	41	31%	100%
治水一般	38		93%
岩倉峡	3		7%
(4) 利水	5	4%	
(5) 治水・利水・環境の関係	22	16%	100%
バランス重視	3		14%
治水重視	2		9%
治水・利水重視	6		27%
環境重視	4		18%
環境か治水か	1		5%
ダムについて	6		27%
(6) 情報共有	5	4%	
(7) その他	5	4%	
(8) 無記入	7	5%	

意見の内容	意見数	構成比	
2 住民として木津川をこうすればもっとよ くすることができると思う点	145	100%	
(1) 河川環境	13	9%	100%
環境一般	4		31%
生物	2		15%
山林	3		23%
ゴミ・清掃	4		31%
(2) 治水	17	12%	100%
ダム	7		41%
岩倉峡の開削	2		12%
堰	2		12%
河川床・川底	4		24%
治水に関する他の意見	2		12%
(3) 水質	41	28%	100%
正常な流水・水質	9		22%
排水施設の整備	32		78%
(4) 親水性を高める河川整備	22	15%	
(5) 住民意識の向上	16	11%	100%
意識・モラル	16		100%
(6) 交流と連携	11	8%	
(7) 情報の共有	5	3%	
(8) その他	2	1%	
(9) 無記入	18	12%	

意見の内容	意見数	構成比
3 住民対話集会をこれから進めるうえで大切な点	152	100%
(1) 対話・交流の必要性	9	6%
(2) 広報・情報公開	14	9%
広報	6	43%
情報の開示	8	57%
(3) 招集・交流・運営のあり方	73	48%
参加のしやすさ	11	15%
開催回数	12	16%
開催場所	10	14%
テーマ設定	5	7%
進行役	3	4%
雰囲気づくり	3	4%
話し合いの運営・意見の集約	29	40%
(4) 参加の姿勢	22	14%
意見を聞く	13	59%
理解しあう	5	23%
意見を尊重する	1	5%
発言する	1	5%
提案する	1	5%
協力・妥協	1	5%
(5) 木津川に対する理解を深める	16	11%
(6) その他	4	3%
(7) 無記入	14	9%

意見の内容	意見数	構成比	
4 ダムについての意見や検討すべき点	140	100%	
(1) 認識の共有・議論の方法	28	20%	100%
共通認識	10		36%
プロセス	5		18%
早い結論を	5		18%
協力者、水没者、移転者、これまでの経緯、水没者の気持ち等	8		29%
(2) ダム建設に関する懸念・疑問	36	26%	100%
必要性・規模	6		17%
環境	3		8%
治水	7		19%
利水	6		17%
地盤	4		11%
土砂	1		3%
ダム自体の安全性	1		3%
建設コスト	6		17%
メリット・デメリット	2		6%
(3) ダム建設に賛成の意見	49	35%	100%
実現	1		2%
早期実現	12		24%
治水との関係	19		39%
利水との関係	3		6%
治水・利水との関係	5		10%
計画との関係	9		18%
(4) ダムをつくるときに配慮すべきこと	9	6%	100%
ダムの短所の補完	2		22%
環境への配慮	3		33%
土砂	2		22%
水質	2		22%
(5) ダム建設に反対の意見	6	4%	
(6) 代替案の検討	6	4%	
(7) ダムの利用	3	2%	
(8) その他	3	2%	
(9) 無記入	0	0%	

平成 16 年 5 月 15 日

平成 16 年 3 月 20 日開催の第 1 回木津川住民対話集会のための
プログラム作成にあたっての基本的な考え方

ファシリテーター 桑子敏雄

平成 16 年 3 月 20 日に行われた木津川上流住民対話集会は、「淀川水系流域整備計画基礎原案（以下、基礎原案）」に対する流域委員会の「意見書」を踏まえて、流域住民意見を計画に反映するために、対話円卓集会という形で行ったものである。木津川上流河川事務所では、すでに複数回の説明会と複数回の意見交換会を開催しており、参加者も多数を数えていた。したがって、本集会は、木津川上流河川事務所の実績、および、流域委員会の「意見書」の両方を踏まえ、説明会および意見交換会から一步進んだ段階に入ったものとして構成することが意義のあることと考えた。

しかし、集会に参加する流域住民の立場に立って考えるならば、これまで何度も説明会、意見交換会を開催しているのであるから、どうしてまた同じような集会を開催するのか、いままでの議論はどのような意味をもっているのかという疑問をもつに違いないという予想があった。したがって、集会では、従前の説明会、意見交換会に対して、河川管理者がどのように対応してきたか、また、従来の説明会・意見交換会と対話集会がどのような目的の点で、また、どのような性格の点で異なるかということを確認にする必要があると判断した。すなわち、基礎原案について意見を求められていること、また、従来型の説明に対する疑問や意見の陳述ではなく、住民どうしの対話のなかから意見を導き出す議論を求められている点をしっかりと説明することが必要だということである。このことを可能にするために必要なことは、本集会の位置づけを明確に理解できるようなプロセスを組むことと、参加住民どうしの意見を相互に認識しあう機会を設けることであった。そこで本集会では、

- (1) 本集会が「基礎原案」とそれに対する流域委員会の「意見書」を踏まえて行われるものであり、河川管理者と流域委員会が住民に対し「基礎原案」に対する住民の意見を示すことを求めているものであることを明確にする
- (2) 参加住民がお互いにどのような意見をもっているかを概略共有するための住民どうしの意見交換を行う

の二点を重点的に行うことにした。第一の点については、

1. 河川管理者から河川法にもとづく整備計画策定のプロセスと「基礎原案」までのポイントを説明する
2. 流域委員会から「意見書」のポイントと本対話集会の目的と位置づけを分かりや

すく説明する

3. 整備局から「意見書」への対応と今後の方針について分かりやすく説明するという三つの点が重要であった。これをファシリテータが河川管理者と流域委員会委員に説明を求めるという形式で行うこととした。この部分も従来型の説明系ではなく、ファシリテータ、河川管理者、流域委員会委員が話し合うという形式をとることによって、従前のやり方ではない、ということに参加者に印象づけるよう努力した。

従来の説明をきちんとするとしても、「基礎原案」について参加住民がすでに十分な情報と理解をもっているとは考えられず、また今回の集会だけで十分理解できるとも考えられないので、今後の集会の過程で、「基礎原案」および「基礎原案」から「基礎案」、さらには計画そのものの策定プロセスについて理解をもつとともに、住民としての意見を深めるプロセスを構築すること、そして、その過程で議論を深め、計画をよりよいものにするための意見を示すことが求められる。

第二の点については、住民意見の形成のために、木津川に対する多角的な関心を共有することが必要であり、今回の集会はそのための手始めとして、地域活動を行っている方二名の意見をききながら、ワークショップ形式で意見の聴取と情報の共有の試みを行った。このなかで、つぎの四つの点について意見を聞きたい。

- (1) 現在の木津川の課題（環境・治水・利水その他）は何だと思えますか。
一つあげてください。
- (2) 住民として木津川をこうすればもっとよくすることができると思う点を一つあげてください。
例) 下水道の整備
- (2) 住民対話集会をこれからすすめるうえで大切な点は何だと思えますか
例) もっと日常的な交流の機会を多くする
- (4) 川上ダムについての意見や検討すべき点を一つお書きください。
例) オオサンショウウオは大丈夫か

すなわち、木津川への関心、よりよくするための提案、対話集会のあり方、川上ダムへの意見・聞きたい点の四点によって構成し、これによって整備計画策定の現状を踏まえた上での住民の意見の概略を把握した。

本集会は、上記二点を柱として、次回につづく集会の第一段階を構成するものとした。

平成 15 年度河川整備計画策定における住民意見反映のための
第 1 回対話集会 プログラム

日時 平成 16 年 3 月 20 日 (土)

場所 ゆめドームうえの (第二競技場)

- 1 : 0 0 開会あいさつ
- 1 : 0 5 進行役紹介
- 1 : 1 0 対話集会開催の背景と趣旨についての説明
- 2 : 0 0 ワークショップ (前半)
- 2 : 3 0 木津川についての意見紹介
- 2 : 5 5 休憩
- 3 : 1 0 ワークショップ (後半)
- 4 : 0 0 質疑応答
- 4 : 2 0 総括
- 4 : 3 0 閉会
- 4 : 4 5 交流会

はじめに掲げる対話集会の目的



対話集会を通して、住民が基礎原案に対して提案を行う。

議論を通して最終的実現が望まれる目的

住民みずから意見を集約して「意見書」として提案する。

対話集会の目的
と位置づけ確認

他者の意見把握

目的の確認

提案にむけて、
住民のインタレストを掘り起こす

原案に対する
提案のまとめ
(意見書)

反映プロセス

第1回 (3/20)

整備局と流域委員会の見解も
知ってもらう

- ・ 対話集会の位置づけと意義を住民に理解してもらう。
- ・ 住民どうしが意見を理解しあえるようにサポートする。

第2回 (6月5日)

住民から提案できるように促し、
「反映」の可能性を高める

- ・ 提案の仕方を議論して決める。
- ・ 原案に対する理解を深めてもらう。
- ・ インタレストに着目する。

第3回 (7月17・18日)

- ・ 原案に対する意見の根底にあるインタレストを掘り起こす。

第4回 (9月4日)

- ・ 原案に対する提案をまとめる。

最もうまく進められた場合の理想としては、参加者の総意として意見がまとまり、意見書の形で整備局と流域委員会に手渡されること。

まとまった意見が形成できなくても、最低限、参加者は意見をまとめようと努力し、それを参加者が実感できるようにサポートする。

唯一の成果がわれわれの報告書の場合、並記された賛成反対意見の根底にあるインタレストを掘り起こし、それらを住民の提案する検討項目として整備局と流域委員会に提示する。それら検討項目に対して何らかの対応や説明責任が果たされるように、検討項目作成までのプロセスと反映プロセスをデザインする。

最終回 (9月25日)

- ・ 提案(意見書)を河川管理者と流域委員会に手渡す。

淀川水系流域委員会
 ファシリテーターとの検討会
 (H16. 5. 15)
 資料 5 - 4

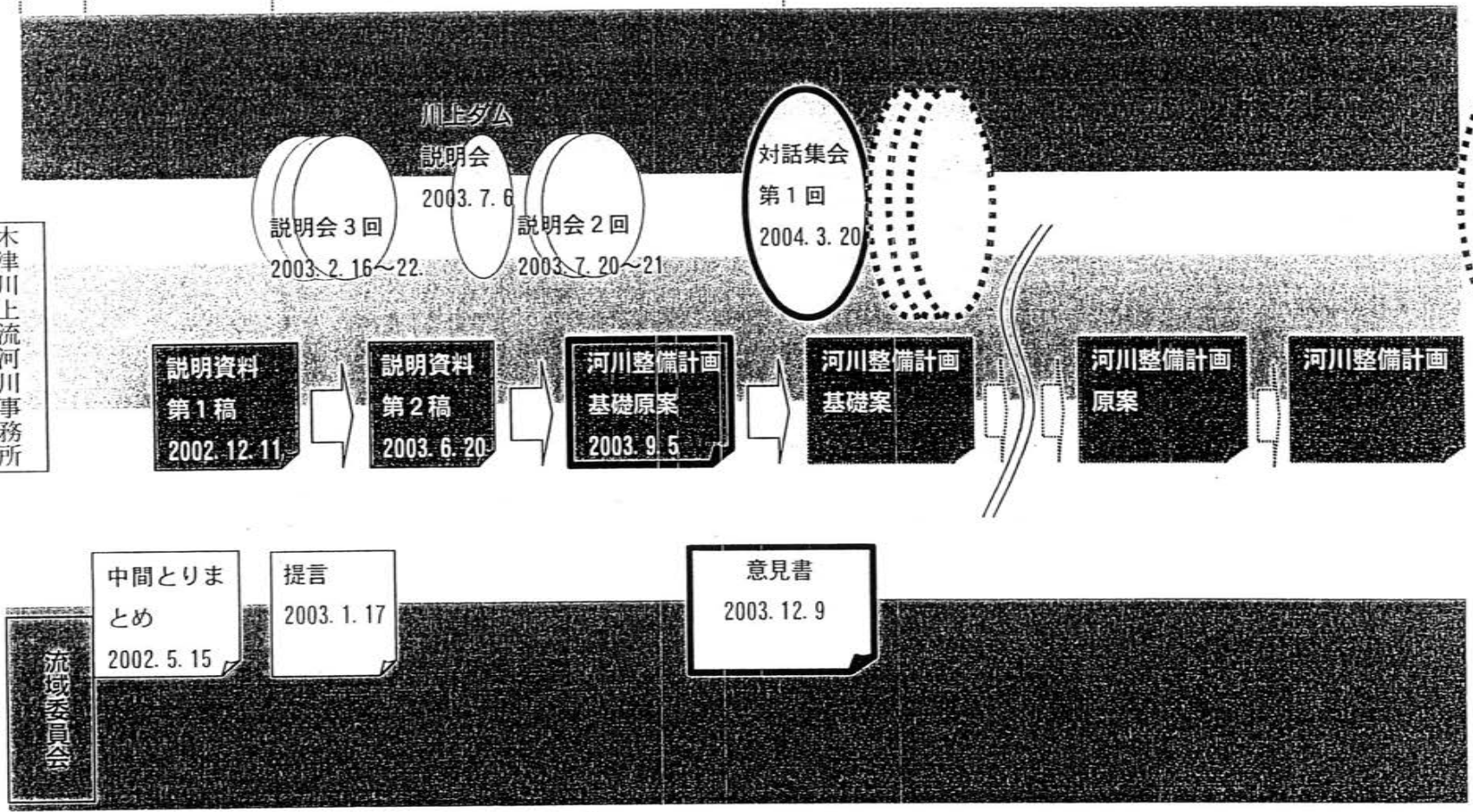
2001 2002 2003 2004~

河川整備基本方針

学識経験者、
 自治体
 の意見

流域住民

近畿地方整備局
 木津川上流河川事務所



淀川水系河川整備計画策定過程と木津川上流での住民説明会の流れ

木津川上流 対話集会

第 1 回

意見のまとめ

概 要

目次

1	対話集会の概要.....	1
	(1) 日時.....	1
	(2) 場所.....	1
	(3) 参加者数.....	1
2	対話集会参加者アンケートの結果.....	2
3	ワークショップで出された意見の結果.....	7
4	ワークショップでの意見集約および検討項目について.....	10
	(1) ワークショップでの各項目の集約.....	10
	①現在の木津川の課題（環境・治水・利水・その他）.....	10
	②住民として木津川をこうすればもっとよくすることができると思う点.....	11
	③住民対話集会をこれから進めるうえで大切な点.....	11
	④ダムについての意見や検討すべき点.....	12
	(2) 出された意見からの課題.....	12

1 対話集会の概要

(1)日時

平成16年3月20日(土)
13:00~16:30

(2)場所

ゆめドーム 第二競技場(上野市)

(3)参加者数

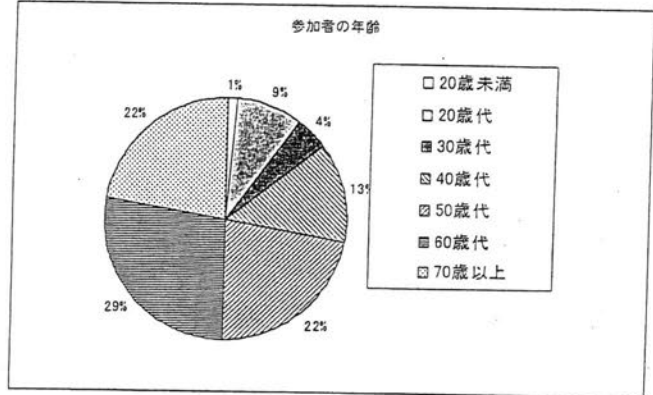
約180人

2 対話集会参加者アンケートの結果

対話集会の参加者アンケートの回答者数は91票で、参加者の約50%であった。

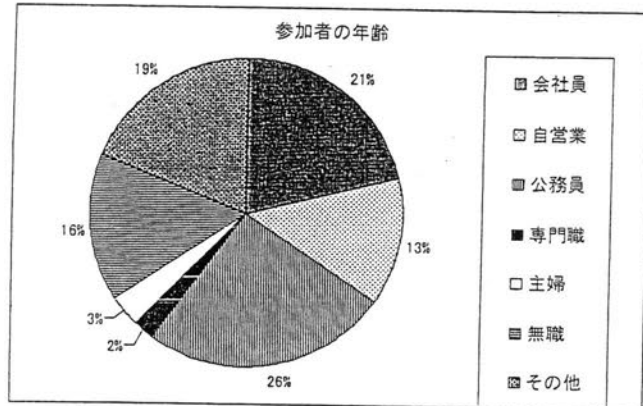
①参加者の年齢

60歳代が最も多く29%を占め、次いで、50歳代と70歳以上が共に22%で、40歳代が13%、20歳代が9%で、30歳代が4%、20歳未満が1%であった。



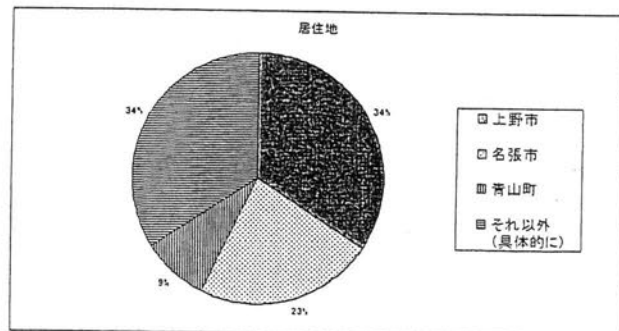
②参加者の職業

参加者の職業は、公務員が26%、会社員が21%、その他が19%、無職が16%、自営業が13%である。



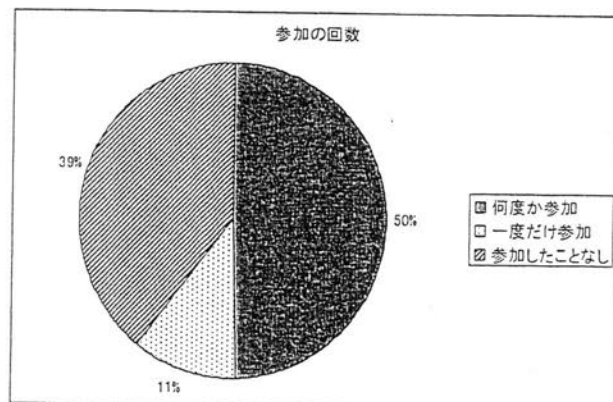
③参加者の居住地

居住地は上野市が34%、名張市が23%、青山町が9%、であった。この2市1町以外のその他の市町村が34%を占め、約1/3を占めている。



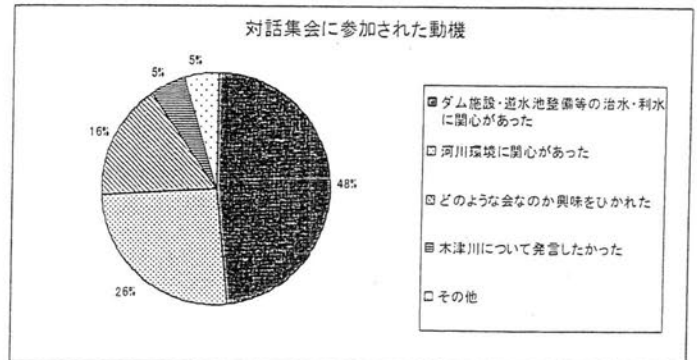
④参加回数

参加の回数は、何度か参加した人が50%を占め、次いで参加したことなしが39%、一度だけが11%であった。



⑤対話集会に参加された動機

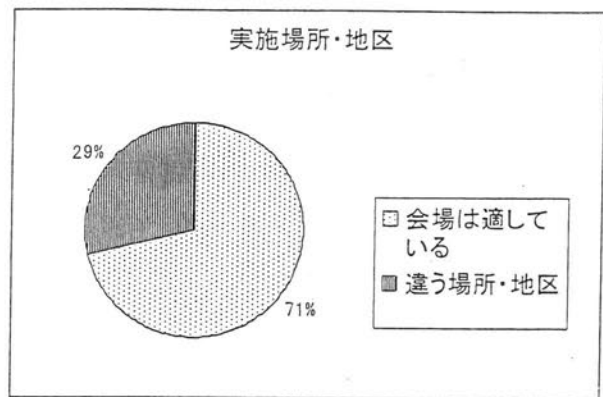
ダム施設・遊水地整備等の治水・利水に関心があったが48%と半数近くを占める。次いで、河川環境に関心があったが29%、どのような会なのか興味を引かれた16%、木津川について発言したかったが3%である。



④対話集会に対する意見

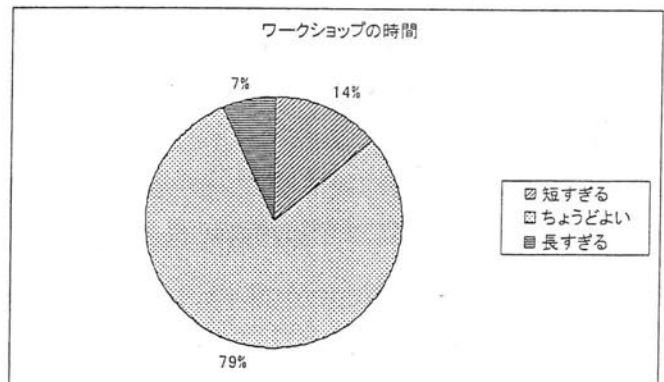
1. 実施場所・地区

会場は適しているが71%であった。



2. ワークショップの時間

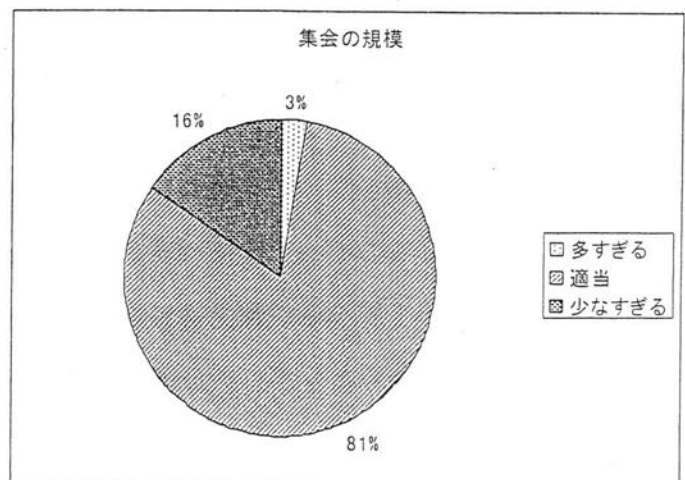
ワークショップの時間はちょうど良いが79%であった。



3. 集会の規模

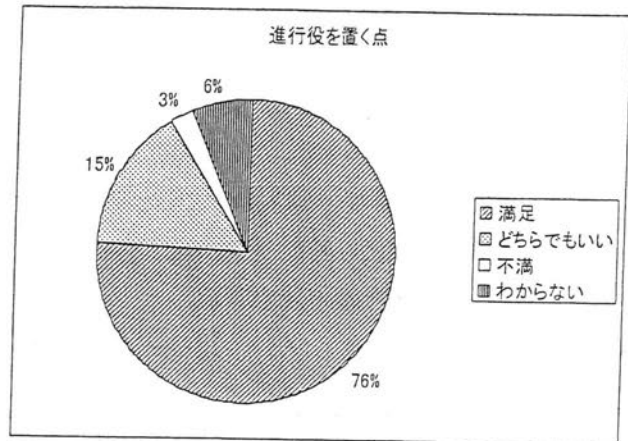
適当と答えた人が81%である。

少なすぎるが16%あった。



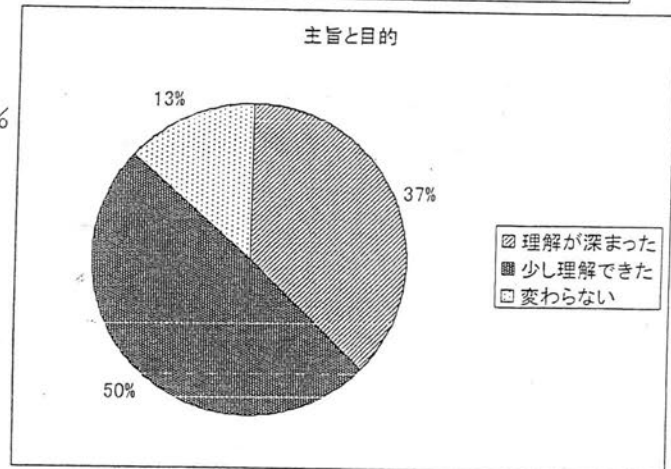
4. 進行役を置く点

進行役を置くことに満足したという人が76%、どちらでもいいが15%、不満は3%であった。



6. 主旨と目的

主旨と目的では、理解が深まったが37%、少し理解できたが50%、変わらないが13%である。



⑤対話集会に対するアンケートの自由意見の内容

対話集会に対する内容に自由意見は以下のものである。

- ・専門的な方がワークショップでのまとめ・進行等をしていて、理解し易い。
- ・次回も出席する方が多いと思う。事前に今日のまとめを出席者に配布して、意見の出やすい状態に心掛けて欲しい。
- ・無記名の意見が活かされるようにして欲しい。
- ・発言者がいつも同じ人が同じ事を言っている。
- ・ルールをつくり時間制限すべきである。
- ・部会をつくってやるべきだ。(一般の人には分からない)
- ・ダムを取り巻く意見は多種多様である。
- ・主な意見として、ダム建設推進、ダム建設中止の両方を同じ時間で発言させること。
- ・①大集会の場合は意見発表希望者に、当日までに小レポート(メモ程度)を

提出させることで発言権を与え、時間を2分以内とする、など効率よく進めること。②感情を抑えて冷静に議論すること。③テーマはオールラウンドに（川上ダム中心だった）。

- ・会の目的が不明確。また、各プログラムの位置づけもあいまい。（特に2名の方のプレゼンは何の為にしているのかわからなかった）到達点は何で、今がどういう場面で、次にどうするとかが見えない。適切な意見が出ないので。「今日はお互いの意見を出しつくしましょう。それで何が同じか、違うかを整理しましょう」と宣言し、前後にそれを確認する。「次回にはこうする」とか。
- ・今の段階（計画案が出されている）で行う内容として適切だったかと疑問に思う。
- ・かなり漠然とした意見提出から、急にダムの具体的な議論になった感がある。最初か。
- ・対話の時間が短い。
- ・小・中・高校生なども参加でき、勉強・意見を聞く場にもならばな・・・と思います。
- ・木津川上流工事事務所の意見をもっとお聞かせ願いたい。
- ・所長の言い訳は必要ない。結論だけでよい。
- ・（今日の椅子では長時間すわっている事が難しい。）
- ・前もってこんな事を聞きたいと言うことを知らせておいて欲しい。この場で考えて意見を書くと言うことは、考えがまとまらない。さらに、項目別に数多くなっているが、紙が不足して思うことが言えないのと時間が不足していることも一因である。
- ・会場から直接意見を言わせるのであれば、2時間位の時間をとってやって欲しい。ダム賛成、反対の人の直接対話もできるようにして欲しい。
- ・今回の対話集会は満点に近いのでは。
- ・集約意見を参考にして次回に是非生かして欲しい。
- ・直接の利害関係者と一般住民が混在して参加しているので極論と一般論が交錯し、まとまって行くのが不安。
- ・相互理解が深まる事を期待したい。
- ・集会は初めて参加したのでよく分からないけれど、うまくまとまれば良いと思いました。
- ・意見の言える対話集会にして欲しい。時間をとって欲しい。
- ・意見をまとめるのは大変。

- ・今までの対話集会とは違う形式で大変勉強になりました。
- ・より多くの方の意見を拾えるので良いと思いました。
- ・今後の展開をどうされるのか、期待して参加したいです。
- ・川上地区の一部の強力な意見は、自分達の利害のみにこだわり、私には非常に聞き苦しい。気持ちは分からないではないが、地球キボで考えれば、自然ハカイはもっと考えなければならない。
- ・ワークショップを行うのは良いと思った。
- ・今までの集会は強く自分の意見を主張出来る人の意見が印象に残りがちだったが、今回は大体ではあるが、様々な意見を知ることができた。"
- ・7月頃木津川上流が主体として実施したものに比べ、非常に良くなっていると思う。今後もこの方向でさらに対話形式の発展を希望します。
- ・ダムにのみテーマを絞った集会があっても良いのでは・・・と思います。
- ・流域委員会からの説明で最初からダム反対の意見例を取り上げて説明し、参加者を誘導しているように感じた。議論の世界では、より非現実的であり、一日千秋の思いで早く実現して欲しいとの思いを受け止めていない。無責任である。
- ・まさに、流域委員会が表明していることと同じで、委員会は提言するだけで責任をとらない。全くその通りだ！
- ・自由に参加するのではなくて、実際に住んでいる方だけが参加し、意見交換したらどうか。→参加者を制限する。"
- ・意見のメモを大きな映像で写して欲しい。
- ・対話集会を重ねていくことによって良い議論ができるのか！
- ・長々と引っ張って居るだけだと思う。地元民としては一日も早い完成を望みたい。
- ・最初なのでこれで良いと思う。
- ・昨秋には、大和川（奈良）の水系を10Kmほど歩いて種々な現場も見学しました。（400人位参加）施設の説明もあり勉強になった。

3 ワークショップで出された意見の結果

第1回住民対話集会では、ワークショップ形式で、付箋への記入による意見収集を行った。

各参加者は、4つのテーマについて、付箋に記入し、その場で整理して、意見の共有を図った。

テーマは、

1. 現在の木津川の課題（環境・治水・利水・その他）
2. 住民として木津川をこうすればもっとよくすることができると思う点
3. 住民集会をこれから進めるうえで大切な点
4. 川上ダムについての意見や検討すべき点

である。

意見をまとめると以下のようなになる。

意見の内容		意見数	構成比
1	現在の木津川の課題	134	100%
	(1) 河川環境	26	19%
	環境全体	12	46%
	生物	3	12%
	土砂	2	8%
	ゴミ	1	4%
	風景	1	4%
	歴史	1	4%
	親水性	3	12%
	水源	3	12%
	(2) 水質・水量	23	17%
	水質	21	91%
	水質と流量	1	4%
	流量	1	4%
	(3) 治水	41	31%
	治水一般	38	93%
	岩倉峡	3	7%
	(4) 利水	5	4%
	(5) 治水・利水・環境の関係	22	16%
	バランス重視	3	14%
	治水重視	2	9%
	治水・利水重視	6	27%
	環境重視	4	18%
	環境か治水か	1	5%
	ダムについて	6	27%
	(6) 情報共有	5	4%
	(7) その他	5	4%
	(8) 無記入	7	5%

意見の内容	意見数	構成比	
2 住民として木津川をこうすればもっとよくすることができると思う点	145	100%	
(1) 河川環境	13	9%	100%
環境一般	4		31%
生物	2		15%
山林	3		23%
ゴミ・清掃	4		31%
(2) 治水	17	12%	100%
ダム	7		41%
岩倉峡の開削	2		12%
堰	2		12%
河川床・川底	4		24%
治水に関する他の意見	2		12%
(3) 水質	41	28%	100%
正常な流水・水質	9		22%
排水施設の整備	32		78%
(4) 親水性を高める河川整備	22	15%	
(5) 住民意識の向上	16	11%	100%
意識・モラル	16		100%
(6) 交流と連携	11	8%	
(7) 情報の共有	5	3%	
(8) その他	2	1%	
(9) 無記入	18	12%	

意見の内容	意見数	構成比	
3 住民対話集会をこれから進めるうえで大切な点	152	100%	
(1) 対話・交流の必要性	9	6%	
(2) 広報・情報公開	14	9%	100%
広報	6		43%
情報の開示	8		57%
(3) 招集・交流・運営のあり方	73	48%	100%
参加のしやすさ	11		15%
開催回数	12		16%
開催場所	10		14%
テーマ設定	5		7%
進行役	3		4%
雰囲気づくり	3		4%
話し合いの運営・意見の集約	29		40%
(4) 参加の姿勢	22	14%	100%
意見を聞く	13		59%
理解しあう	5		23%
意見を尊重する	1		5%
発言する	1		5%
提案する	1		5%
協力・妥協	1		5%
(5) 木津川に対する理解を深める	16	11%	
(6) その他	4	3%	
(7) 無記入	14	9%	

意見の内容		意見数	構成比	
4	ダムについての意見や検討すべき点	140	100%	
	(1) 認識の共有・議論の方法	28	20%	100%
	共通認識	10		36%
	プロセス	5		18%
	早い結論を	5		18%
	協力者、水没者、移転者、これまでの経緯、水没者の気持ち等	8		29%
	(2) ダム建設に関する懸念・疑問	36	26%	100%
	必要性・規模	6		17%
	環境	3		8%
	治水	7		19%
	利水	6		17%
	地盤	4		11%
	土砂	1		3%
	ダム自体の安全性	1		3%
	建設コスト	6		17%
	メリット・デメリット	2		6%
	(3) ダム建設に賛成の意見	49	35%	100%
	実現	1		2%
	早期実現	12		24%
	治水との関係	19		39%
	利水との関係	3		6%
	治水・利水との関係	5		10%
	計画との関係	9		18%
	(4) ダムをつくるときに配慮すべきこと	9	6%	100%
	ダムの短所の補完	2		22%
	環境への配慮	3		33%
	土砂	2		22%
	水質	2		22%
	(5) ダム建設に反対の意見	6	4%	
	(6) 代替案の検討	6	4%	
	(7) ダムの利用	3	2%	
	(8) その他	3	2%	
	(9) 無記入	0	0%	

4 ワークショップでの意見集約および検討項目について

対話集会参加者は、環境・水質・治水・利水の三点に大きな関心を寄せていることがわかった。とくに治水に対する関心と水質に関する関心が高く、その他、多方面から意見が寄せられた。

「淀川水系整備計画基礎原案」で川上ダムについて検討すべきとされている4項目、すなわち、

- (1) 代替案に関して、さらに詳細な検討を行う。
- (2) 貯水池規模の見直し並びに貯水池運用の変更に伴う貯水池周辺やダム下流に与える影響をはじめ、環境等の諸調査を行う。
- (3) 土砂移動の連続性を確保する方策の検討を行う。
- (4) 利水について、水需要の精査・確認を行う。

と異なると思われる点、あるいはとくにポイントとなる意見について、以下に整理を行い、集約する。特に参加者住民は、ダムそのものについてだけでなく、ダム建設と流域の地域社会との関係について、河川管理者に説明を求めている。

(1)ワークショップでの各項目の集約

①現在の木津川の課題(環境・治水・利水・その他)

(ア) 河川環境

- ・昔のような河川の自然環境をとり戻すこと、および、今も残されている自然環境の保護
- ・生物の生息、生育環境の悪化。(蛇を含む固有種、在来種の減少)。
- ・ゴミ問題
- ・風景・景観
- ・森林(水源)のかん養と水質の確保

(イ) 水質・水量

- ・ダム建設による流量の変化、ダムへの生活排水、その他産業排水の流入による水質の悪化と流域の荒廃への懸念

(ウ) 治水

- ・治水安全度についての懸念

(エ) 環境・治水・利水の関係

- ・治水と環境のバランスを広域的、歴史的な視点で考えること

(オ) 情報共有・説明責任

- ・木津川上流の住民との利害関係の説明が不十分

②住民として木津川をこうすればもっとよくなると思う点

(ア) 河川環境

- ・土砂と生物の河川縦断方向の連続回復。
- ・改修工事等には稀少生物等に配慮した工法を十分取り入れること。
- ・森林整備

(イ) 治水

- ・河床整備。

(ウ) 水質

- ・正常な流水確保
- ・下水道の整備
- ・生活排水・産業排水の改善。

(エ) 親水性を高める河川整備

(オ) 住民意識の向上

(カ) 関係者の交流と連携。

- ・流域の住民、自治体、国交省三位一体となって出来るだけ、地域住民の意見を取り入れていくことが、大切と思う。
- ・意見を反映するシステムづくり

(キ) 情報の共有

- ・情報の公開と説明

③住民対話集會をこれから進めるうえで大切な点

(ア) 対話・交流の必要性

- ・交流機会の工夫
- ・情報共有

(イ) 広報・情報公開

- ・分かりやすい情報の開示。

(ウ) 招集・運営のあり方

- ・参加をしやすく、回数を多く、場所も変えて
- ・徹底的な議論を・実のある集会、意見についての理由、説明を添える。
- ・住民、専門家、多様な人々の参加を
- ・徹底的な議論、納得のいく対話集会

(エ) データと情報

- ・科学的な調査、研究のデータによる対話
- ・ダムのメリット、デメリットの情報共有

④ダムについての意見や検討すべき点

- (ア) 政策評価・政策プロセス、計画プロセス
- (イ) 建設のメリット・デメリット、必要性についての客観的で十分な説明
- (ウ) 治水規模についての説明・費用およびリスク負担についての説明・治水効果についての説明、治水規模との関係での費用対効果
- (エ) 利水の見通し
- (オ) 地盤の安全性
- (カ) ダム自体の安全性
- (キ) 魚の遡上
- (ク) 土砂堆積
- (ケ) 水質悪化への懸念
- (コ) 建設コスト

(2)出された意見からの課題

以上のまとめとして、つぎの4項目を指摘したい。

- ① 川上ダム問題での分かりやすい情報公開と情報共有、管理者と住民との交流・連携・上下流の連携についての説明、川上ダムの計画についての情報提供、意見聴取・連携のあり方についての説明
- ② メリット（治水効果を含む）とデメリット（費用負担を含む）についての分かりやすい説明
- ③ 川上ダムの関係する各種安全性とリスクについての説明
（治水安全度、治水規模、リスクおよび費用負担、地形・地盤（大滝ダムとの関連）、土砂堆積、排砂、水質悪化への懸念、流量低下など）
- ④ 計画から建設までのプロセス・スケジュール（財政面も含めて）についての説明